

# 日本医師アマチュア無線連盟会報

## No.65

### 第 27 回日本医学会総会（大阪）特集号 大阪MARS総会に参加して

MARS 会長 JA7AOM 及川 忠人(岩手県)

4月6日から8日まで第27回日本医学会総会が大阪で開催され、その交歓行事としてMARS総会が盛會理に開催され、とても有意義な総会の一時を過ごすことが出来ました。これまでの準備を周到に重ねて続けて来られました前会長東條先生を始め多くの3エリアの諸先生方の絶大なご支援ご協力に心から感謝申し上げますと存じます。

総会開催前日大阪に到着し早速大阪城ホールを訪ねましたが、大阪城が真正面に見える南面の大阪城ホールの場所に特設のアンテナを東條先生が準備されて、そのおかげでHF帯での記念局 8J3GAJMC/3 の運用に参加することが出来て久しぶりにオペレーターとして on air することが出来とても光栄でした。7MHzの電波は特に北海道や九州の五島列島や沖縄までほとんど 59 オーバーで入感し、多くの地域のアマチュア局から逆に記念局の運用について激励する局長さんも多く、記念すべき交信参加となりました。

総会は約 40 名の参加で一般総会の中では特に平成 18 年度に Silent Key になられた真下先生、2 月中旬に突然逝去された中村仁先生、

そして昨年は闘病生活の生の体験談を話されておられました 3 月中旬に逝去されました大門先生の三人へのメモリアルキーが狭山先生の縦振り電鍵によるモールスが会場内を流れ、MARS総会でなければ味わえない雰囲気の中で、起立黙祷を献げながら三人の大先輩のご冥福をお祈りした次第でした。

小生はこれまでほとんどのMARS総会に参加されて乾杯の音頭を取っていただいた真下先生の面影は印象的でした。また特に毎週MDネットのコントローラーとして長年活躍された中村先生の明るい独特の声が脳裏に浮かびました。さらに今回長年色々お世話とご指導を頂きました大門先生の訃報はとても残念であり、その闘病生活や生き方に打たれるものがあり、とても残念でなりませんでした。特に阪神淡路大震災の後のMARSニュースの発行の際に示された情報収集能力と会報編集への情熱には頭が下がる思いがいたしました。また特に長年連載されたマリリンモンローの大門先生の著作はとてもユニークなものでありました。MARS総会のあとに大門先生の奥様から記念にと送っていただいた「キューバ -光と影-」と題した写

真集も素晴らしいものであり、大門先生の独特の素晴らしい感性の一端を学ぶことができ感謝でありました。

さらに今回のMARS総会の特別講演は神戸市医師会副会長本庄先生であり、阪神淡路大震災の体験からの医師会活動の講演はとても素晴らしいものでありました。また、JA3AA 局、島OMの講演はとても静かでしたが、情熱あふれる講演でありました。初めてお会いしたとは思えないような大先輩のアマチュア無線にかけられる情熱がご高齢になっても高いポテンシャルに維持されていることにとっても感激をおぼえました。さらに加えて、これまで聴いたことのなかったアマチュア無線に係わる落語を初めて聞くことができました。これも東條先生の周到な準備の賜物であり、圧倒される思いと笑いとが調和して素晴らしい充実感を持つMARS総会になり、感謝でした。

翌日は飛鳥の故郷へとエクスカッションは素晴らしい天候に恵まれて、飛鳥路の歴史探訪はとても興味の深いものでありました。明日香地方は満開の桜と桃の花そして菜の花が咲き乱れ、それに水仙も咲き、東北では味わえない一足早い春爛漫の光景に恵まれたことは感謝でありました。飛鳥寺では丁度お釈迦さんの誕生日ということで偶然ですが様々な儀式がおこなわれておりました。飛鳥寺の大仏さんのお顔が面長であり、左からと右からとの顔が違って見えるそうです。仏教伝来の歴史的経過が良く理解出来るものでした。また大化の改新の舞台である蘇我入鹿の首塚への探索や聖徳太子の生まれた橘寺での素晴らしい光景が眼に浮かびます。また高松塚古墳は現地での大和時代の歴史の学びの場になりとても楽しい有意義な一時を過ごすことが出来ました。とても狭い地域に飛鳥時代の都が現存していたこと

を実感することができて、とても有意義な旅をさせていただいたことに感謝でした。

昼食は有名な総檜づくりの奈良ホテルで頂きました。まもなく 110 周年を迎えると言う伝統的な歴史のあるホテルであり、オードリー・ヘップバーンの泊まったとき、ローマの休日でのヘップバーンはそんなに大きい人ではないと思ったが、相手のグレゴリー・ペックが大きな人であったこともあり、とても映画の印象とは異なるとの話を聞き興味深いものがありました。またユル・ブリンナー、ジョン・ウエイン等の国際人のエピソードを加えて、感心と驚きで参加者は感謝しつつ、帰路へと戻りました。今回の明日香路への観光企画は東條先生が数年前から準備周到に着々と進めてこられたことのように、蘇我氏の巨大な石塚が印象的でありました。これまでの記念局のご準備MARS総会への準備、そしてこの明日香路への旅行企画等多くの行事をこのようにまとめて頂いたご努力に、敬服と併せて満腔の謝意を表したいと思う次第です。

MARS総会がこのような形で毎年開催されてゆく中でとても素晴らしいアマチュア無線を通しての友情と社会交流がはぐくまれ、一つの趣味を通して、全国各地で活躍されている会員各位の糧になって参りましたことを大変誇りに思います。来年はエイトの北海道での総会を準備しておりますが、大阪のような充実した内容を準備することは大変困難であると思っております。しかしながら少しでもMARSの存在感をアピールすることが求められており、災害時の情報伝達の唯一の大切な手段としての位置づけを今後ともしっかりと進めて参りたいと思いますので今後もMARS活動へのご支援とご協力を重ねてお願い致しまして、大阪MARS総会の印象記に替える次第です。東條先生本当に有り難うございました。

# MARS 会員都道府県別分類

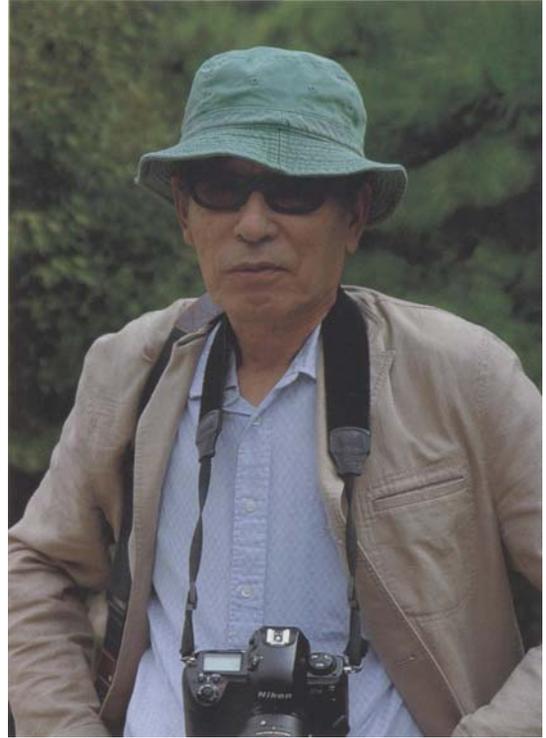
( J A 1 ) 21局			( J A 5 ) 3局
東京都 JA1FF	JA1BOW	JR1VUF	香川県 なし
	JF1SXY	JK1AIN	徳島県 JA5GPJ
	JP1HIS	<u>JH7WKU</u>	JA5POS
神奈川県 JH1IAA		<u>JR9FQO</u>	愛媛県 なし
埼玉県 JR1CDJ	JR1JIC	JE1MMK	高知県 JH5KAJ
	JL1LRJ	<u>JA3HQ</u>	( J A 6 ) 5局
茨城県 JI1VAH			福岡県 JA6BMB
群馬県 JA1KXT	JR1SJD		JA6RQK
千葉県 JM1BIX			JH6IBM
栃木県 JF1EJS	JO1RTV		JG6DAO
山梨県 なし			大分県 なし
( J A 2 ) 9局			熊本県 なし
愛知県 JA2DQH	JH2QBQ	JR2AXV	宮崎県 なし
	JG2XEJ		鹿児島県 なし
静岡県 JA2BIV	JE2ANG	JE2KKI	佐賀県 JR6EZJ
	JO2DBR		長崎県 なし
岐阜県 JO2IXU			沖縄県 なし
三重県 なし			( J A 7 ) 22局
( J A 3 ) 34局			青森県 JA7VAB
京都府 JA3ASU	JH3SQM	JH3SQN	JR7BWP
	JH3SRC	JR3HFS	秋田県 JH7MSL
	JR3JJQ	JF3ITN	JE7MMC
	<u>JK1QLR</u>	JF3NXJ	岩手県 JA7AOM
大阪府 JA3BQT	JA3LDH	JA3WKF	JH70LB
	JH3AEF	JH3MWR	JH7XGQ
	JR3LJI	JR3MCI	JR7QWT
	JF3EKP	JJ3MIG	JE7EDF
	JF3PMG	大塚博紀	JG7CRJ
兵庫県 JA3XED	JH3GOB		山形県 なし
奈良県 JE3UDD			宮城県 JA7EVM
和歌山県 JH3TCC	JR3SIK	JF3JON	JH7CAI
	JI3CIN	JJ3KUL	JH7EQW
	JN3ASW	JM3BCQ	JR7QFA
( J A 4 ) 5局			JM7USW
岡山県 JH4TIC	JE4EWM(exJA5LDZ)		福島県 JA7FHH
	JG4JFW		JA7RTM
広島県 JH4DPL	JH4UYB		JE7GFM
鳥取県 なし			JJ7BRL
島根県 なし			( J A 8 ) 4局
山口県 なし			JA8FOH
			JA8JDQ
			JA8RSJ
			JI8MLV
			( J A 9 ) 3局
			富山県 なし
			石川県 なし
			福井県 JA9SN
			JH9HDD
			JE9RWF
			( J A 0 ) 4局
			新潟県 JA0CEP
			JA0HGN
			JH0LME
			JE0BWH
			長野県 なし
			_____は他エリアからの移動局
			計 110 局 (2007 年 8 月現在)

# 大門茂行先生のご逝去を悼む

JA7AOM 及川 忠人

平成19年3月12日午後6時38分に大門先生がご逝去されたことが、東條先生から伝えられ、昨年の横浜での第30回MARS総会でお元気そうに挨拶されていたことが思い浮かんだ。すでに大門先生のご逝去から5ヶ月が経過しているが、大門先生の歩みと小生がご指導を受けたことの印象を含めて大門茂行先生の追悼文に替えたいと思います。

大門先生はMARS会長として、またMARS会報の編集を、大変精力的にこなされ、我々のお手本として活動されたことは、MARS会員は誰もが認めるところであった。小生が特に大門先生との交流を得たきっかけは、災害時のアマチュア無線のことについて、積極的な大門先生のご指導をえたことが大きいと思う。それは平成9年1月17日に起こった阪神淡路大震災に伴う大災害に伴うアマチュア無線の役割についての一連の検討であった。阪神大震災についての反省・検討・展望については、すでに大門先生の詳細な報告とマスコミが報道した切り抜きのファイルがMARS会報にも掲載されている。大門先生は大震災に関する課題特に常時の電源確保の重要性について述べられておられた。小生が平成8年夏に対応を開始した岩手山噴火災害対策訓練の中に取り組みされた、アマチュア無線による災害非常無線に関する報告を全面掲載していただき、我々岩手山を取り囲む町村が主体になって行った防災訓練についての励ましの言葉を頂いたことは、懐かしい思い出になりました。また大門先生は長年マリリンモンローについての独特な検討、随筆がありこれは先生でなければ出来ないことではなかったのかと思います。また晩年には様々な困難な状況を克服



しながら、デジカメによる素晴らしい写真集の発刊を成し遂げられました。特に先生のキューバ訪問時の写真集は大門先生の生き方、考え方の集大成ではなかったのかと思われ、小生はその分野は素人ですので分からないことではありますが、素晴らしい内容になっておられると思われました。また先生の写真集を掲載したホームページ <http://www.s-daimon.com/> も独特のカメラワークが感銘を与えるものであったと思います。

大門先生は数年前から膵臓癌との闘病生活をなさっていることは、多くの会員が知っていたことですが、昨年の第30回横浜MARS総会ではご自分の闘病生活の実態を正直に我々の前で堂々とお話になりました。おそらく大阪MARS総会に出席できるかどうか、確信を持ってない中でのご発言ではなかったのかと思います。MARS会報(63

号)を改めて読み直しながら、先生の命への達観した「悟り」とも言えるご発言に胸の詰まる思いをした会員も多かったのではないかと思います。本当にMARSの発展を願いながら、旅立たれたのではないかと思います、万感胸にせまるものがあります。小生はどうしても葬儀に参加出来ずに、少し落ち着いてからと思い、大門先生夫人にお電話をさしあげました。その中で、小生が尊敬してやまない日野原重明先生の著書に引用されたインドのタゴールの詩を読ませて頂きました。次のような詩であります。

こんどわたしの誕生日に  
わたしはいよいよ逝くだろう  
わたしは身近に友らを求める一  
彼らの手のやさしい感触のうちに  
わたしは 人生最上の恵みをたずさえて行こう  
人間の最後の祝福をたずさえて行こう。

今日 わたしの頭陀袋は空っぽだー  
与えるべきすべてを  
わたしは与えつくした。  
いくらかの愛と いくらかの赦しが得られるのなら、  
わたしは それらのものをたずさえて行こうー  
終焉の無言の祝祭へと  
渡し舟を漕ぎ出すときに

1941年5月6日 朝(タゴール著作集2巻)

ご自分の運命を知りすぎるほど自覚しながら、御夫人と母校のスタッフに支えられてこのタゴールの詩のように、死の大海に漕ぎ出され、すでに5ヶ月の時間が経過してしまい、遅れてしまったことをお詫び申し上げながら、天上での大門先生の御霊の安からんことを願いつつ、拙いMARS会長の追悼文にと致します。

## 今一度お話したい大門先生

### JH3AEF 東條 純一(大阪府)

大門先生と聞けば「あー、あの無線の」、更にこの世界の人間なら「京都の ARY さん」と大門先生を知らない者は医者ではないとまでは云いませんが、われわれ大阪の、いや全国に散らばるドクターハムは、親しくご指導いただき楽しみを与えていただいた先生でありました。世の中には急速にIT化、デジタル化の波が押し寄せ、というよりは無線の世界の進歩と共にこれ等の技術の進歩があったと云えるのでしょう。新しい技術に目の無い先生は、いち早くこれ等

の技術を導入されるなか、画像に対する興味がすこぶる強かったようでした。開発当初のデジカメを入手するやいなや完全にデジカメの世界に没頭され、遂には従来の銀塩カメラのオーソリティー達も舌を巻く域にまで到達なさいました。我々アマチュア無線家には「おい、おい、おい、ARYさん、無線は？」とやや妬ましくも思えるお力のいれようでした。

昭和48年に第1回の全国MDNETを開始した日本医師アマチュア無線連盟の発足に、献

身的なご尽力をいただいた先生は、地元京都においては、後進のドクターハムのモールス通信技術の向上、更には、海外のハムとの交信には語学力も必要と英会話の教育にもお努めになりました。そのご様子は、当時、2mFM で大阪からも良く聞かせていただいたものでした。一方ではご自身の無線技術、学力の向上にも邁進され、W のハムライセンス取得のため渡米、みごとに合格を果たされました。昭和 55 年には、日本医師アマ無線連盟が主催するバヌアツペディション、即ち未だアマチュア無線が普及していなかった南洋の島国バヌアツに出かけ、機材を提供しその技術の授与と公開運用のための奉仕活動に参加され、現在の彼の国のハム活動の礎を築かれました。平成 7 年からの 5 年間は日本医師アマチュア無線連盟の会長の要職におつきになり、会員活動の要となられたことは記憶に新しいところであります。なかでも連

盟の活動の大きな柱である「災害と医師アマチュア無線」をテーマにした研究のなかで、先生が発表された数々の論文及び技術的検討の中には幾多の革新的なものがあり、その評価には非常に高いものがあります。

先生についての思い出、先生からいただいた教訓、数え上げれば限がありません。心に残るお言葉、これも幾つもあります。その中のひとつをご紹介しますお別れの言葉といたしましょう。ARY さん長いあいだ有難うございました。「あんたなー」話が佳境に達すると「東條先生」でも「AEF さん」でもない、「あんたなー」とこられます。「あんたなー、土地買い集めたら金になる、切手でも集めたら金になるやろ、そやけどなー、QSL CARD みたいなもん、幾ら集めたかて金にならへん、それを夜も寝んとやるっちはえらい、誰にでもでけへんでー」

合掌

## さようなら JA3ARY

それ自体は断片的な出来事なのだが、不思議にはっきりと残っている幾つかの記憶がある。お世話になった 故JA3ARYさん と過ごした時間だ。

\* \* \*

最初の記憶は、水戸のホテルのロビーでのことだ。前夜MARS総会があって、確かあのときはJARL総会と一緒にだったのでないだろうか。翌朝エクスカッションに出かける直前のことだ。ARYさんから「アメリカにある」という 430 MHz でのレピーターの話、それが運用出来るというハンディー機を見せてもらっていた。未だ存

### JA1KXT 相田 信男(群馬県)

命だったJA1KFとか、JA9MHZとか、超OMたちが参加されている会であった。レピーターについてはたまたま私が知らなかっただけだったのかも知れないが、新鮮なお話だった。さらに米国での免許とコールサインをもっていると言われたARYさんの話に、この人は本気でハムやっているのだなと感心した。

\* \* \*

ずっと後にARYさんが病に取付かれて間もなくだったと思うけれども奥様を介してお電話をいただいた。私の仕事上の恩師が同様の病によって世を去られて間もない頃の出来事で、ま

た彼自身がモンローファンであることもマスコミを通じて知られていたところだったので、ARYさんはどこか親近感をもっておいでのご様子だった。ARYさんがモンロー関係の本をお出しになったり、ご自宅にすばらしいコレクションをお持ちだったことなどは、多くのMARS会員もご存知の通りだ。実はその少し前に他のご本をいただいでいて、私にもしきりと機会をみて自費出版せよと勧めていただいでいた。実際私は後にARYさんから伺ったこうしたお話を思い出して、自分の還暦の際にそれまで書いたものを纏めた。ところがこれが出版社の編集者の目に留まる幸運を得て、専門書の発刊に繋がった。ARY効果としか言いようがない。とてもありがたい話である。

\* \* \*

ときどきご案内をいただいた写真展に、ついに私は伺えなかった。ところが私の妻はたまたま京都まで仕事上の面接試験を受けに出かけた際に、ARYさんの写真展会場をお訪ねする幸運を得た。帰ってきて「(メーカーは)もっと立派な会場を提供すべきだ」と少し怒っていた

記憶がある。写真に感動して余計感じたらしい。いただいた写真集や、はがき、そしてネットでの写真館を拝見するに、ハムと同様、何事にも本気で、また道を究めておられたARYさんのお人柄、お姿が偲ばれる。奥様から「待合室にでも」といただいたキューバの写真集を、入院患者用の図書室に寄付した。あの写真を多くの人にご覧になっていただけることだと思う。

\* \* \*

あれは京都でのMARS総会の夜だった。夜桜見物に出かけての道すがら、「あんさん、これ換えて一な」とご持参の大型カメラのある部分を示されて、レンズ交換作業の準備を私に命じられた。暗闇では見にくいとおっしゃるのである。私はARYさんの大事な作業のお手伝いができて、ちょっと嬉しかった。いつまでも青年の如き熱意と、弛まぬ努力と、集中力、凝り方をされているARYさんのお手伝いをしながら、多分私は、少年のように喜んでいたに違いない。

\* \* \*

まだまだありますが、幾つもの思い出をありがとうございました。安らかにお眠り下さい。

## 中村 仁先生(JR2IZO 局)のご逝去を悼む

JA7AOM 及川 忠人

平成19年2月16日 JR2IZO 局 中村仁先生の訃報に接したときの驚きは忘れられない衝撃であった。2月14日朝のMARS Dr. Net 3.5MHz および 7MHz で Net のコントローラーとして活躍してきた中村先生のお声はその次のネットから聞くことが出来ない現実に啞然としてしまった。東條先生と渡辺先生と連絡がとれましたが、突然のこと

であり、どうしても残念でしたが告別式には参加することが出来ませんでした。

中村仁先生はここ約20年近くをMD Net のコントローラーとして活躍されて、先生の声が聞こえなくなることは、まさか予想も出来なかったことであります。またMARS総会のビデオ記録を必ずご自分から率先して作成されて総会出席会員すべて

の会員に贈るのが先生の恒例の年間スケジュールであったと思われます。

MARS会報を遡りますと、平成2年度のMDネットの報告がありますので、約17年間のMDネットのコントローラーとして役割を地味に果たしてこられたことが分かります。特に7MHzのMDネットでは独特の明快な発声で多くの会員に親しまれました。ここ数年は各局の印象的な交信の内容を短く記載することが当たり前のことのように報告されておりました。7MHzのコントロールは電波の状態にかなり左右され、コンディションの悪い日が相当に続いたことがありました。その様なときはいつも率先して周波数を確保することが多かったのではなかったかと思えます。またアンテナへの興味については情熱家であり、大変活動的な人柄が多くの会員および多くの他の関連職員等に親しまれて参りました。

また、中村仁先生の発音とトーンそしてその明るい雰囲気はMDネットのコントローラーとしてとても良い印象を他のアマチュア局にあたえていたのではないかと思います。これも中村先生の人柄

からくるものであったと思います。

昨年でしたでしょうか、岩手県の三陸地方を車で観光するとの話が、ネットで伺いましたが、何もご支援することもなく、小生の郷里を通過したとのことを伺いましたが、今思えば、ご案内すれば良かったとも反省させられます。

中村仁先生は実際にアマチュア無線のほとんどオールバンドで活躍しておりました。高いバンドでの試行FWへの参加等ほんとうに頭が下がるほどのご活躍であったと思います。地元では絶大な信頼を受け、多くの地域住民のかかりつけ医としての立場を堅持されており、その明るい活動的なMARS副会長を失ったことは、MARSにとって大変大きな損失であり、またとても寂しい限りであります。

もう早くもご逝去から6ヶ月が過ぎようとしておりますが、これまでの中村仁先生のMARSへの活動のご貢献に心から感謝し、中村仁先生の御在天の御霊の安からんことを心から願いつつ、MARS会長としての拙い追悼文に替える次第であります。

## IZOさん 永らくお疲れさま

JH3AEF 東條 純一

2月14日 水曜日 何時ものようにMDNETが始まった。3.5MHzのCONDXはFBで7エリアも1も3も全てが59で届いていた。7MHzにQSYしてからはLOCAL SKIP、2のIZOさんの信号は了解度かろうじて3、それでもIZO局の洗練されたMIC CONTROLで聞き取れない局の情報も手に取るようにイメージできた。恐らく彼が聞き取れていないときに発せられるハッツ、ハッツ、ハアアは、おれの所で聞こえてないん



だから、各局聞こえなくても仕方がないよのサイ

ンだったのであろう。それを確かめることも今は出来なくなってしまった。

総会がどの地で開かれようと、あの詳細にわたる NET の年報があなた自身の口から報告されない年は無かったし、食うものも食わず、飲むものも飲まずに CAMERA をまわす姿のない総会も無かった。幾つもの役掌を軽々とこなしてこられた IZO さん、あなたがいなくなって初めて、IZO 局が MARS にとって如何に重要な局であったかの認識を新たにさせられたことに気がついた。

あの MDNET の日の夕方に倒れてしまうとは。一寸順番を間違ったな、IZO さん。それにしても永らくご苦労様でした。

お別れの日、私はほん昨日まで IZO 局が活躍した伊賀盆地を、願わくば JR2IZO の電波が放たれた ANT 群をこの目に焼き付けるべく、JH7QFA 渡辺 OM と車中の人となっていた。奈良盆地を過ぎ、奈良三重県境の山間部にかかる頃から濃霧の状態になり、視界は 10m をきる状態が続いた。車のフロントガラスは湿っぽく、ハンドルをきる手がにぶってしまった。何かが出来てくれるな、来てくれるなど言っているような感じがひしひしと迫るのを感じた。名張市に着くまでどうしても信じたく無かったのであろう。

水曜日に信号が確かに発射された ANT を脳裏に焼付け、玄関に掲げられた悲しい張り紙を読み、会場にはせ参じた非常に沢山の人々を目の当たりにしたときには、IZO さんの SK を最早信じざるを得なくなってしまっていた。奥様にお会いした。まこと奥様は、お前達なら会ってやって欲しいと思われたのであろう。我々を彼の枕元まで案内してくださり、しばし無言で立ち尽くし、ポツリと総会でのご一緒だった楽しかった旅行の話などなされた。我々はただただ彼に直面し、無言で立ち尽くした。一瞬頭の中を何かが走り視野が見る見る曇るのを覚えた。

奥様は CALL SIGN はあるのだが、RIG の扱いが全く解らない。彼が倒れた日から丁度 1 週間目に当る次の水曜日には、ON AIR して皆様にお礼を申したいのだが、恐らく電波を出すことは出来ないだろう。皆様と一緒に楽しませていただいたことへの感謝の気持ちを、くれぐれも宜しくお伝えいただきたいとのことであった。喪主はご長男の卓さま、既に MD におなりで、葬送の席でのご挨拶も非常に落ち着いてご立派で感心させられた。

IZO さん、あとに残されたご家族のことは全く心配ないと確信した。どうか安らかにお休み下さい。 合掌

## JR2IZO こちら JA1KXT. ありがとうございます。

JA1KXT 相田 信男

《はじめに——80m MARS ネットのこと》

もうしばらく前から、毎週水曜日朝の 80メートル MARS ネットで、私がマイクコントローラーの役をしている。お聞きになったことがおありの方

はご存知だろうことだけでも、私の、オン・エア・ネットの終わり方は、ひどくあっけない。参加各局のコールサインを呼び、自分の ID に加えて「ありがとうございます。さようなら」と述べ

たら、それだけでお終い。あとはもうしゃべらないので、素気ないと言ったってよい。

だが珍しいことにあの日だけは少し違っていたと、鮮やかに記憶している。そして、その日の午後、IZOさんが倒れた。

### 《JR2IZOさんとのこと》

恐らく「中村先生」とお呼びしたことは殆どない。いつも「IZOさん」だった。1977年春に作並温泉でMARSの会が開催される直前まで私は2mと6mだけでの運用だったし、どうやらその時期にIZOさんはQRVを休んでおられたのではないかと思う。結局、その作並温泉での機会に、お空よりも先にグランドでIZOさんに最初にお会いしたようだ。だが、以後、MARS総会でのグランド・アイボールはもとより、多くのバンドで、またSSBだけでなくCWも含めて、加えて異なる運用場所からも、お空でお会いしてきた。

これまた多くの方がご存知のように、IZOさんはそのお仲間と共に、ひとつには波長の短い電波(極端に短い!)の開拓者の一人であり、もうひとつにはJARLのAJAアワードに関するアクティヴなハンターの一人だった。その業績は驚くほどの、否、あきれ程のものだった。だからこんな記事、そのようにさまざまなQSOをこなして来られたIZOさんに読まれたら、笑われちゃうかもしれないのだが、上記のようにあちこちでお会いした末に彼からいただいたQSLカードの、私のささやかなコレクションをお見せしたい。

私が再免許を申請、再開局したのは1976年10月。上記の通りHFに出るようになったのが1977年4月なので、①(以後数字は写真のそれ)その4年半後に「お久しぶりでした」というメモ書きのあるQSLをいただいていたのは、私が

同じ八王子市内で引っ越した時期だからだと思う。40mSSB、MDネットでの再会だ。②やがて建物ぎりぎり余地のない庭一杯にHF用グランドプレーに幾本ものコードを継ぎ足して無理やりトップバンドに出た。私が呼ばれたと記憶している1988年5月のQSOだ。多分このときのCWハンドルのお陰で、以後私はIZOさんが「Zin(仁)さん」というお名前だという風に今日まで思い込んできたが、カードで「Hitoshi」と改めて知った。

私はその後都内を引越して回り1988年春に前橋市に移った。③は1988年5月4日、水曜日の朝、群馬に移って最初のMDネット参加、40mSSBでのQSLだ。この頃忘れられない出来事があった。それは当時私がQRVしていたリグの終段管6146のヒーターが切れてQRTせざるを得なくなったところ、IZOさんが6146を二本宅配便で送ってくださったことである。余りに嬉しかったので記事を書かせて貰った(日本医師アマチュア無線連盟会報、京都編集11号、平成元年3月)。

③と同じデザインのカードを1990年1月3日、QSOパーティでお会いした30mCWでもいただいたし、④は同じ日に10mでハッピーニューイヤーと交わしたときのものだ。その年の暮れに私は赤城村に移ったが、ある日たまたま空でお会いしたIZOさんのリクエストに応じて、次々に「全バンド」をQSYしてレポート交換した。それで「IZOとはHF全バンド済み」と思い込んでいたが、この度確かめたら、WARCバンドも含めてあれほどQSOしたというのに、実は20mでのQSOの記録がなかった。惜しいところを欠かしたものである。

⑤は皆様お馴染みだったと思うが、名古屋での日本医学会総会に合わせて総会を開催し

た際のMARSクラブ局記念QSLだ。⑤も⑥も80mSSB、水曜日の朝のものなので、多分私がQSLのデザインを変更した折にお送りしたカードへのご返事をいただいたものと思う。ウン、⑥にデザインされた人物はIZOさんに似ている。1996年5月1日、水曜日朝、80mSSBでのカードである。

QSOだけでもこんなに色々お世話になった。他にはMARS総会で出かけた各地での出来事、ことにIZOさんが撮って下さったVTRのこと、沢山のお世話になったのだった。改めてお礼を申し上げたいのだが、もう遅い。お名前をZinさんだと間違えていましたよ、ごめんなさいとか、この程度のコレクションで自慢げに記事書いても笑わないでねとか、次には是非とも14メガでお相手お願いしますとか、今から申し上げたいことがとても沢山あるのだけれども、もう届けることはできない。

《おわりに——あの日のこと》

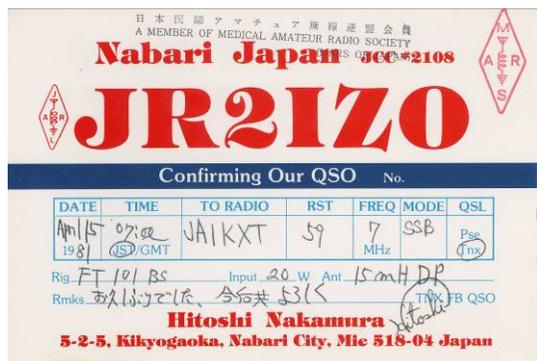
ログによればその日、2007年2月14日、私は3.568メガヘルツで0530JSTに「CQ MDネット」と声を出した(ようだ)。JR2IZO から呼ばれたのが0547JST。続いて0548にJR3HGYがいつものようにチェックイン。ところがこの日のコンディションは珍しく悪かった(と割とはっきり憶えている)。盛岡も神戸も遠い感じだった。加えて

妙な混信も受けていたようである。私は各局の信号を聴き、MCをするのに苦労していた。比べて、どうやらこの日、IZOさんの2エリアでは各地の信号を受けるのに困難が少なかったのだと想像する。そしてネット終了の時間が来た。私は最後のIDを送り始めた。「JR2IZO, JR3HGY, JA7AOM, JA7VAB, JH3GOB, JR1CDJ, JH7QFA, JH3AEF,そしてJF3JON こちらはJA1KXTでした。」と。

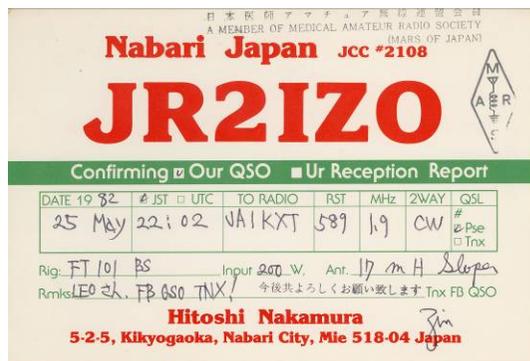
こうして私は参加各局のコールサインを呼び、自分のIDに加えて「ありがとうございました」と告げたが、この日は本稿冒頭に描いたいつもの終わり方とは幾分異なっていた。それは、久方ぶりのコンディションの悪さ故にMCの運用をIZOさんに助けていただいたという事態をめぐって御礼を申し上げているつもりだったけれども、上記IDに付け加えてこう言ったのだった。「IZOさん、お手数おかけしました。どうもありがとうございます」。すると彼が応えた「いいえ、どういたしまして」。そしてそれが御終い。その日の午後倒れたIZOさんは、さらに二日後、帰らぬ人となった。

\* \* \*

IZOさん、いろいろとお手数おかけしました。沢山お世話になりました。どうもありがとうございました。心をこめて、vy73。



①



②



③



④



⑤



⑥

## 日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977 年(昭和 52 年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に 30 年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

### 1) 総会と懇親会

毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。

2) 毎水曜日の朝、3.568MHz(05:30~06:30)及び 7.060MHz(06:30~07:00)付近でロールコール(MD ネット)を行っている。

3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を年2回発行している。

4) MARS 医学アワードおよび MARS 医学アワードⅡの発行。

5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>  
(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒577-0058 東大阪市足代北 1-16-20  
東條医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 06-6781-0076

F A X 06-6781-0078

E-mail [jaef.tojo@nifty.com](mailto:jaef.tojo@nifty.com)

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法:事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

# 第27回日本医学界総会交歓行事 アマチュア無線大会 ならびに 第31回MARS総会

2007年4月7日 ホテルグランヴィア大阪にて

司会進行 JH7QFA 渡辺孝志(宮城県)

たれるものがございます。

今日は本当にありがとうございました。

会長挨拶 JA7AOM 及川忠人(岩手県)

歓迎の挨拶

大阪府医師会理事 JA3LDH 高井康之

第31回 MARS 総会にお集まりいただきましてありがとうございます。この1年間、第27回医学界総会交歓行事としてのアマチュア無線大会・MARS 総会を開催するにあたり、JH3AEF 東條先生に大変お世話になりまして、心から感謝を申し上げたいと思っております。また今回は8J3GAJMC の記念局を大阪城ホールにオールバンドのアンテナを自作で設営していただきまして、私も昨日7MHzで8エリアから6エリアまで42局の交信を久しぶりに楽しませていただきました。

MARS の会員の皆様、全国のアマチュア無線にご興味をお持ちの全国の医師の皆様、医療関係者の皆様、ようこそ大阪へお越しいただきありがとうございます。大阪で医学会総会が開かれるのは24年ぶりで、今回の医学会総会の特徴は学術講演もさることながら、8J3GAJMC を開設しておりました大阪城ホールで一般の方向けに企画展示をおこないました。医学の進歩や医療の問題点について理解していただくための展示やいろんなイベントを行い、昨日までに一般の方が20万人以上ご来場いただきました。記念局の場所が一般の方からは見えない場所だったのが少し残念でしたが、先生方に運用していただいて大阪の医学会総会を全国にアピールしていただければ有り難く存じます。

平成18年度は JH3HHM 真下先生、2月に JR2IZO 中村先生、3月に JA3ARY 大門先生の3名の先輩を天国に送らざるを得ない状況になり非常に寂しい限りでございます。特に IZO 局は当日に7MHzの交信をして、その夕方意識がおなくなりになって、その翌々日にご他界されたということをお聞きして驚きを隠し得ません。JA3ARY 大門先生は去年のこの席で克明にご自分の闘病生活をお話しいただきまして、会報にも載っておりますけども、心を打

アマチュア無線の役割としては趣味として意外にインターネット等他のインフラが災害時にやられてしまった場合に、無線通信の果たす役

割はまだまだ捨てた物ではないと思っております。医師として災害時にご活躍いただくと同時に、無線の技術を持っていれば何か役に立つと思いますので、先生方のご協力よろしくお願い申し上げます。

本日は私以外に大阪府医師会からJA3WKF井藤理事が参加しております。大阪府医師会の執行部には2名のMARS会員がおりますので何か支援できることがあればサポートしていきたいと存じますのでお申し付けください。

本日はおめでとうございます。

### 議長選出

J13CIN 仲井間憲要氏(和歌山県)を選出

### 報告事項

庶務報告 JL1BGP 井上文正(東京都)

会員数 108名

入会 1名

退会 2名

Silent Key 3名

JH3HHM、JR2IZO、JA3ARY

Memorial Key DE JM1ZZM

by JA3ASU 狭山信矩(京都府)

### 事業報告

MD ネット JH7QFA 渡辺孝志

本来ならJR2IZO中村先生がご報告をなさるところです。日本医師アマチュア無線連盟会報64巻5ページから8ページに中村先生が記録をされておられます。3.5は52回行われまして多くの方にご参加いただいております。近況につきましても中村先生に記載していただいておりますので、会報をご覧ください。

2月14日にIZOさんは3.5と7Mに出られま

した。3.5はコンディションが良くメリット5だったのですが、7Mはコンディションが悪くJH7QFAの方でも2,3エリアはメリット2でした。でも、IZOさんとはスカイプでコンタクトをとっていたものですからすぐそばにいらっしゃるようなものでした。IZOさんがSKになられたのですが、MDネットにも皆様大勢出ただいて盛大にやるのが、IZOさん ARYさん大先輩方の供養になるのではないかと考えております。

### MARS NEWS

JF3JON 田中憲児(和歌山県)

昨秋に63号、今春に64号を発行しました。皆様のご投稿をお待ちしております。

### MARS AWARD

JA1KXT 相田信男(群馬県)

アワードハンターズグループの年次総会で資料を配らせていただいたことと、CQ誌でPRしていただいたため、医学アワード5名、医学アワードII3名と申請者の数が増えました。

#### 1)MARS 医学 AWD 発行状況

No.157 JA0CGJ 鎌田 博 class B / SSB

No.158 JI0JFA 田中雄一 class B / 7MHz SSB

No.159 JH8EAQ 武田洋一 class B / SSB

No.160 A92GR Mohamed Al-Buflasa

class B / SSB

No.161 JJ6QPW 印南俊夫 class B / SSB

#### 2)MARS 医学 AWD II 発行状況

B-7 JA0CGJ 鎌田 博

B-8 JA1BUQ 力石富司 + ステッカー3枚

/ 7MHz SSB, AJD 完成

B-9 JO1JIS 磯崎友市 / SSB

#### 3)会計

収入の部:

前年度からの繰越	6,114 円
MARS AWD 申請料	4,000 円
申請料(IRC6 枚 相田買取)	900 円
合計(A)	11,014 円

支出の部:

AWD 送料(JA) 240×8	1,920 円
AWD 送料(DX) 670×1	670 円
文具・その他送料	5,143 円
合計(B)	7,733 円

合計 (A-B) = 3,281 円 → 次年度に繰越

参考:AWD 年間賞のリグ 22,800 円と記念局の QSL カード(4,000 枚)印刷代 39,550 円は本部会計より支出していただきます。

#### 4)MARS 医学 AWD II へのボーナスポイント

MARS医学アワードIIのボーナスポイントを8J3GAJMCの運用期間に設けるという件を

MARSニュースの64号に書きましたので事後承認していただきたいという件と、医学アワードも医学アワードIIと同じように、GCRを不要として自己申告でもいいのではないかと提案です。申請者にすればルールは緩和ということになります。承認

#### 5)MARS 医学 AWD 年間賞抽選

懇親会での抽選の結果、JJ6QPW局に決定しました。

#### MARSホームページ

##### JH3TCC 家田勝幸(和歌山県)

月の合計では総会前の3月には2387のヒットがありました。新アワードやボーナスポイントを見に来てくれている方が多いのではないかと思います。

### 平成18年度 会計報告 JL1BGP 井上文正

収入の部	予 算	決 算
繰越金	2,139,099	2,139,099
定期預金	1,500,000	1,500,000
普通預金	639,099	639,099
会費収入	856,000	568,000
合計(A)	2,995,099	2,752,663

支出の部	予 算	決 算
MARSニュース	800,000	547,470
MARSアワード	50,000	50,310
ホームページ管理費	120,000	110,880
総会助成金	100,000	100,000
送料通信費	100,000	65,950
事務用品費	20,000	1,868
慶弔費	30,000	58,280

事務員礼金	60,000	60,000
雑費	20,000	0
合計(B)	1,300,000	994,758

(A)-(B)=次年度繰越額	1,757,905
内訳 定期預金	1,500,000
普通預金	257,635
現金	270

### 会計監査報告

帳簿、通帳、領収書等を厳正に確認の結果、会計は適正に運用されていることを証します

平成19年4月7日

監事 JA1FF 国府田守雄

監事 JH3GOB 稲見 修

### 議事

役員改選追加事項 JA7AOM 及川忠人 承認

JH3AEF 東條純一氏に顧問にご就任いただきたく存じます。

平成19年度 事業計画案 承認

- 1)災害時のアマチュア無線連絡体制の検討
- 2)MDネットの継続と参加人数の拡大

3)MARS NEWS の発行

4)MARS ホームページの充実

5)高周波エネルギーと健康および医療機器との関連に関する検討

6)各地域での MARS 会員の入会勧誘

### 協議事項

次期総会は8エリアを予定しております。

平成19年度予算案

承認

収入の部		支出の部	
定期預金	1,500,000	MARSニュース	600,000
普通預金	257,635	MARSアワード	50,000
現金	270	ホームページ管理費	120,000
会費収入	808,000	総会助成金	100,000
合計(A)	2,565,905	送料通信費	100,000
		事務用品費	10,000
		慶弔費	50,000
		事務員謝礼金	60,000
		雑費	10,000

合計(B)

1,100,000

(A) - (B) = 次年度への繰越金 1,465,905

## 閉会の挨拶 JL1BGP 井上文正

本日は皆様ありがとうございました。今回は日本医学会総会が大坂でありまして、その場所で総会をやるという慣例で東條先生にお手数をお掛け致しましてありがとうございました。アマチュア無線そのものの人口が減ってきていてMARSの方も人数が減っておりますが、

JK1QLR 長瀬啓介先生にご参加いただきました。アマチュア無線がこれから発展していくのは難しいかと思いますが、何とかこういう会を継続して、年に1回皆様とお会いしながら無線とアイボール両方で楽しみを続けていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## 大阪総会参加者

Call Sign	氏名
JA1FF	国府田守雄
JA1KXT	相田信男
JR1CDJ	大久保義明
JR1JIC	大澤 崇、弘子
JF1EJS	奥谷雅生、香代子
JF1SXY	小方冬樹
JK1AIN	中村幸信
JK1QLR	長瀬啓介
JL1BGP, JL1XWR	井上文正、喜代
JR9FQO/1, 7K3MSJ	松井健一、加奈
JH2QBQ, JH2UDD	丸山暢、成子
JE2KKI	山本信徳
JA3ASU, JR3RJY	狭山信矩、陽子
JA3BQT	長谷川昌三
JA3LDH	高井康之
JA3WKF	井藤尚之
JH3AEF	東條純一
JH3GOB	稲見 修
JH3SQM, JH3SQN	郷原憲一、望美
JH3TCC	家田勝幸
JR3HGY	土屋忠彦

JF3EKP	三好敏之、麻里
JF3JON	田中憲児
JJ3CIN	仲井間憲要
JJ3KUL	高田俊行
JJ3MIG	山上勝久
JL3SIK	西村与志郎
JH6IBM	石井文理
JA7AOM	及川忠人
JH7QFA	渡辺孝志
JE9RWF	岩堀嘉和
豊島区	北野新弓、直弓
JR3LOO	西尾幸治
金沢市	宮村 肇
神戸市	宮地条治
JA3AA	島 伊三治
神戸市	本庄 昭
JO3KHA	笑福亭瓶太
JE3RZT	野添憲三
JR3QHQ	田中 透
JE3CRA	楠 哲夫
JM3FUW	中島静一

# 記念講演：阪神大震災における医師の初動体制

神戸市医師会副会長 本庄 昭 先生

神戸市医師会の本庄でございます。今日はMARS総会の記念講演にご招待いただきありがとうございます。阪神大震災の医師の初動体制についての話をしてくださいとのことです。前半は私たち神戸の医師は何をしたか何をしそこなったかを検証します。その後にはこれからはどういった対策を立てたらいいかというお話をさせていただきます。災害時の要援護者、耳や目のご不自由な方日本語を解されない方高齢の方子供たち等が要援護者ですが、今日は在宅療養を行っている方々に対して我々かかりつけ医が災害に備えてどういったことを用意すべきかということをお話させていただきますと思います。

## 阪神淡路大震災

神戸には大きな地震はないという神話の中で生活しておりました。でありますから M7.3 の直下型地震が起こったときには本当に驚きましたし、また普段からの災害に対する備えもありませんでしたので、国際都市神戸は非常に美しい街であったわけですが一瞬にしてがれきの山と化してしまいました。災害の時に何が求められるか、先ず最初に求められるのは医療でございます。しかし阪神淡路大震災の時には、まだ、D-MAT というような緊急時の医療班もありませんでしたので、発災したあと42時間あるいは48時間の間、まさにそのたくさんの怪我をなされた方々に対して医療を施したのは自ら被災した医師であり医療機関でございました。でありますから様々な大きな間違いを我々は起こ



しました。

ここで、阪神淡路大震災の時のビデオを約2分間ご覧いただきたいと思います。もっとも被害の大きかった長田地区のビデオです。長田は小さな工場が密集しておりました。消火栓も破壊されたために消防活動も出来ず、燃え尽きるまで燃えました。これは翌日の燃え尽きた商店街の状態です。

これは43号線の阪神高速神戸線の転落事故でトラックが落ちているところです。

これは1週間目の被災地区の状況で燃える物は全部燃えてしまっています。一見外は何もないような建物も中が燃えております。

これは学校における水の配給風景です。避難所は体育館ですが廊下にも溢れております。全くプライバシーのない状態です。安否の確認のための貼り紙を窓ガラスに貼っております。

このビデオはたくさんのボランティアの方が神戸市役所に来られたのですが、どこにボランティアに入っていいかわからなかったのです。ボランティアのコーディネーターがいなかったのです。この当時のボランティアは物を持ってく

ることがなかったので、被災地に行って服や風呂や食事や家は何とかなるだろうと思って来られました。新潟中越地震の時から、ボランティア活動は2、3日分の食料と着替えは持って行くようになりました。

今日の前半のお話は、阪神淡路大震災はどういった物であったかというお話です。阪神淡路大震災は今から12年前の1月17日午前5時46分に発生しております。震源地は明石海峡でございます。震度7を観測した断層地帯は横幅が約1km長さが約20kmの範囲で広がっております。特徴的なのは六甲山の北側の北区や西側の西区、垂水区、須磨区には大きな被害はなく、激震地は表側の東灘区から灘区、中央区、兵庫区、長田区にまたがっておりました。阪神淡路大震災の特徴は過去に例のないような強烈な揺れを伴う M7.3 の直下型地震でありました。

この地震の中にもラッキーな点がいくつかありました。一つは5時46分という時間帯であります。まだ各家庭では起き出したところで火もあまり炊いてなかった。火災は七十数カ所で発生したのですが、後1時間遅ければ全市的な大火災になっていた可能性があります。それから薄曇りでした。薄曇りでなくもしも大雨が降っていたら二次災害として土砂災害が起こっていたと推測できます。それから無風でした。たくさんの木造家屋が壊れて同時に七十数カ所から火災が発生したわけではありますが、風が無くても炎が竜巻のようになる火炎流が長田地区で観測されました。もしこの時に風が吹いておればもっと類焼していたのではないかと思います。こういった3点は条件としては幸いしたのではないのでしょうか。

犠牲者を増やした一番大きな原因は木造家

屋でございます。何ら耐震の備えのない木造家屋が潰れてしまって、その下敷きになってたくさんの方がお亡くなりになりました。そこから失火して家屋が燃えてしまって約300人の焼死者が出ました。

もう一つの特徴は電車とか道路とか、ライフラインが同時に潰れたことであり、そのために神戸の行政の中核機能は三宮に一点に集中しておりました。そのため我々神戸市民は大震災の後数時間、どこで地震が起こったのか、どこへ行けばいいのか、どこで何をすればいいのか、ガスが漏れ出ているけどどこに報告して助けを求めたらいいのか、全くわかりませんでした。そういったことから現在は神戸市では9区に行政機能のある程度分散させております。

大震災における兵庫県の人的被害が約4万6千人、家屋の被害が約44万世帯ありました。兵庫県全体にたくさんの災害救助法が適用されたのですが、神戸市だけでなく兵庫県全体が、災害の備えがなかったという反省がございます。現在は兵庫県や神戸市が中心になって年に2、3回の訓練を行っております。

神戸市における人的被害は死者が4,571名でした。そのうち地震そのものによって亡くなった直接死が85%でありました。地震では助かったけれども、その後肺炎・心不全・心筋梗塞で亡くなった震災関連死の方が15%約670名いらっしゃいます。

直接死因を詳しく見ると圧死、窒息死、焼死等で瞬間的になくなった方が92%でしたが、しかしながら瞬間的にはお亡くなりにならなかったのに、その当日の夜や2日目以後にお亡くなりになった方が8%約300人いらっしゃいます。この670人と300人の併せて約1,000名の方が、もしちゃんとした備えがあれば、医療の流

れがあれば助けることができた可能性があります。当日、瞬間的になくなった方のうち60歳以上の方が58%いらっしゃるわけですが、木造家屋の特徴として1階にお年寄りが寝て、2階3階に若い方が寝ていたという生活習慣があるのではないのでしょうか。震災関連死の方も60歳以上の方が58.4%いらっしゃったのですが、避難所や救護所はぎゅうぎゅう詰めの劣悪な環境にありましたので、持病の胸の病気や心臓病が悪化して亡くなった方が多いと想定されます。

その他に全体として負傷者が約1万5千名ありました。阪神淡路大震災は余震が1週間以上続くものでありました。地震当日にたくさんの死傷者がありましたが、その後家屋や家具、ブロック塀、自動販売機が転倒したことによりたくさんの方が負傷されておられます。これは十分に予防できることでございます。

被害を受けられた負傷者の方々がどのような経路で病院に救急搬送されたのか。実は阪神淡路大震災の時には国道43号線上には阪神高速が落下しました。国道2号線や一般の広い道路や山麓バイパスの橋桁も落下しまして、道路が寸断されてしまった状況にもかかわらずほとんど陸路で搬送されました。何故船舶を使わなかったのか？何故ヘリコプターを使わなかったのか？そういった反省点が多々ございます。現在、神戸市におきましては兵庫県とともにヘリコプターは救難ヘリ、救助ヘリ、医療ヘリと3機ございます。そして船舶も神戸大学に深江丸という船を用意できました。そして、災害時に人工透析の患者さんを主として運ぼうという企画でございます。

神戸市内には1,419の医療機関があり、医師会員がA会員B会員合わせて約2,700人い

らっしゃいましたがその中で7名の方が命を落とされました。診療不能となった医療機関が154(11%)ありましたが、東灘区、灘区、中央区、兵庫区、長田区に集中しております。北区、須磨区、垂水区、西区の被害は少なかったのですが、その被害の少なかった地域の医療機関に被害の多かった地域の患者を運ぶということをしませんでした。たとえば西区のある病院では、震災当日や翌日に受診したのはわずか数名で、たまたま避難したときに病院があつて怪我をしていたので受診したというだけのことで、激震地の真ん中から被害の少ない地域の医療機関と情報交換して患者を搬送するということができませんでした。これは大きな反省点でございます。

避難人数と避難所の数ですが、神戸では震度5の地震を想定しておりました。最大時には236,000人以上の避難人数がありました。市内364カ所の小学校・中学校・高等学校・公民館等を避難所として指定しておりました。しかし、体育館でも肩を寄せ合つて寝たり廊下で寝たりトイレのタイルの上で寝ている方もいらっしゃいました。そういったプライバシーのないところが苦痛になった方や、そんなところにも入れなかった方々が自分たちの近くの公園に小さな青いテントを張つたような避難所を含めて最大で599カ所の避難所がありました。これが大きな問題で、巡回診療ができなくなりました。さらに心のケアの問題でカウンセラーがどこに避難所があるのか把握できず、入ることができませんでした。冬で劣悪な環境でしたので肺炎を起こす人もたくさんいらっしゃいました。

救護所や避難所である程度の日数が過ぎると仮設住宅へ移つたわけです。神戸では仮設住宅への入居は公平を期すためにくじ引きを

するということにしたのですが、しかし、まず身体障害者と高齢で寝たきりの方を優先的に配分して、その次にくじ引きを行いました。その結果、ある仮設住宅では平均年齢が90歳近い高齢者ばかりの住宅が出来てしまいました。避難所では近所の方が同じ小学校に避難して仲間意識があったのですが、くじ引きの結果隣が見知らぬ人で全くコミュニケーションが取れなくなることがありました。一番悲惨なのは家も家族も職もなくした男性でした。長引く仮設暮らしの中でお酒に溺れていき、栄養状態が悪くなって知らないうちにお亡くなりになったいわゆる孤独死の方が300名以上いらっしゃいます。そういった反省から新潟中越地震では避難所から仮設住宅へ行くときには同じ地区ごとに行くことになりました。

### 被災医療機関は何をしたのか？何が出来たのか？

1. 医師会として災害対策マニュアルはあったのか？→当時はなかったので現在作成
2. 行政と医師会は災害対策訓練をしてきたのか？現在は年間 2, 3 回医師会として行政の災害対策訓練に入っております。
3. 被災医療機関は診療を一刻も早く開始したのか？対応は様々だったが、現在は一刻も早く診療所を開けるようにしている。医療機関には患者が集まるので、インスリンを必要としている人や救援物資の情報等、行政が集めることの出来ないような情報を集めることができます。医療行為が出来なくてもサロンとしての意義があります。
4. 避難所・救護所・仮設住宅・仮設診療所での診療は十分であったのか？
5. 病院への応援態勢は十分であったのか？

みんな頑張って駆けつけた病院で、一刻も早く治療しようというせっぱ詰まった気持ちで一所懸命にやっておりましたけれども、これが間違っておりました。一刻も早く被災地外の医療機関へ搬送すれば助かった可能性があったかも知れない方もありました。当時は災害医療という言葉も無かったし、トリアージも行われませんでした。とりあえず運ばれてきた患者さんに対して一所懸命に対応しました。最悪なのはクラッシュ症候群でした。大阪の病院にどうして運ばなかったのかと反省しております。トリアージでは、①救命不可能な患者に時間や医療資源を費やさないこと ②緊急性の高い患者を選別し、搬送・治療の優先順位を決めること ③治療不要な軽症患者を除外することを行います。現在は神戸における災害訓練ではトリアージタグを持って一般の開業医の先生にも参加していただいております。

### 検証1：医療情報ネットワークの構築

神戸では被災後48～72時間は大阪や姫路、岡山の医療機関との情報交換が出来ませんでした。被災地と非被災地との双方向性の情報交換のため、その翌年の1996年に兵庫県ではフェニックス計画という広域災害時の情報交換システムが整備されました。JR福知山線の事故の時にも役立ちました。

1. 被災地の医療情報発信：発災現場、被災地医療機関における傷病者の人数、傷病の程度、収容能力、搬送能力などの情報、医師会員の被災情報の把握
2. 非被災地域からの医療情報発信：非被災地医療機関の収容能力、待機状況などの情報

3. 1. 2. の被災地、非被災地域のスーパーコーディネータの存在と経時的な双方向性情報の公開: 災害時要援護者の情報

### 検証2: 災害医療の取り組み

1. 医師会として医療を中心とした災害対応マニュアルを作ること
2. 行政等関係機関との訓練をしておくこと
3. もしも災害が発生したら被災傷病者の流れを作ること

神戸でも阪神淡路大震災の経験のない住民が5人に1人を占めており、マニュアルも常に更新しておかねばなりません。最終的な目標は **Preventable death** (避けうる死) への対応でございます。在宅療養患者への対応も含まれます。

### 検証3: 被災地現場の医療

1. どの医療機関がどの救護所を担当するのかが決めておくこと: 区ごとに各先生の担当を決めております
2. 被災者への医療内容が時間とともに変わることへの理解: 最初の24時間は外傷ばかりで、48時間くらいから持病の悪化、1週間後くらいからは感染症の発生が増えていきます
3. 『かかりつけ医』の診療を一刻も早く開始すること
4. 被災地に入ったD-MATとの連携
5. 避難所、救護所に入った医療応援チームとの連携: 県外のボランティアチームは1週間はとても助かったのですが、短期の診療で投薬等が変わり患者さんにとっても大変な状態になりました
6. 医療応援チームの引継ぎと撤退への対応
7. 病院への応援体制の構築
8. 検死への理解

9. 被災地医師会は被災医療機関情報を収集し、被災地医療情報を発信するシステムの構築

10. 病院の防災機能を高めておくこと: 受水タンクや自家発電装置の設置、建物設備の耐震性など、汚水用の災害井戸の設置

11. 在宅療養患者への対応

### 検証4: 災害時患者搬送システムの構築

災害現場で一時トリアージをして災害拠点病院・病院・診療所に搬送し、もう一度二次トリアージをして、陸路・海路・空路を通して非被災地域の病院へ搬送するという流れをしっかりと作れば **Preventable death** を回避できるのではないかと思います。その典型が堺市でO-157の大量な集団発生が起きましたが、誰一人として死亡するお子さんはいらっしゃらなかった。堺市民病院にすべて患者さんの情報を集めて、どんどん患者さんを送り出すことができたからです。これは、新潟中越地震の時にもいかされました。

### 検証5: 心のケア

1. PTSDへの対応: 身体の異常、行動の異常、情緒の異常が出るので、1週間経てば遅いと考えられ出来るだけ早くカウンセリングをスタートする。中越地震の際には1週間、阪神淡路大震災の際には大きな避難所のみだけしか対応できなかったのですが、入るまでに2~3週間かかりました。心の傷ですが、その当時家族を亡くしたり家の下敷きになった方は、地震の後、いまだにうつ症状を訴えていらっしゃいます。私自身にも心の傷が残っております。
2. アルコール依存症、孤独死への対応: 避難所や仮設住宅でのコミュニケーション作りが必要です。

神戸ではこれから発生する可能性のある東南海地震では M8.0 くらいで 2m から 4m の津波がくるかもしれないと言われており、ハザードマップが作成されております。津波の危険地域には 500m おきに大型の拡声器と超大型の排水ポンプが設置されております。

現在の神戸は災害を経まして、壊れた病院などは耐震構造の新しい建物に建て替わりましたが、市役所などは潰れた 4 階から上の階を取り除いて補修して使用しております。

### まとめ＝今しておくこと＝

1. 災害時の自分の避難先は？：医師としてどこに駆けつけるのか？住民としてどこに避難するのか？
2. 誰と誰に声をかけるか？災害要救護者への対応は？：医師として？防災福祉コミュニケーションメンバーとして？
3. 災害グッズの用意は？：衣・食・住が災害時には、医・職・住が求められる

### 災害時の在宅療養患者への対応

#### －かかりつけ医の立場から－

在宅療養患者の基礎疾患

1. 重度の脳血管障害等
2. 重度の消化器疾患
3. 重度の呼吸器疾患
4. 重度の循環器疾患
5. 重度の神経・筋疾患
6. 重度の臓器不全
7. 廃用症候群
8. ターミナルケア
9. その他(複数疾患)

が対象患者になります。

在宅療養(医療)の内容は、一般診療・経鼻

経管栄養、中心静脈栄養、PEG/PTEG 管理、在宅酸素療法、気管切開後管理、人工呼吸器管理、非侵襲的持続陽圧呼吸療法、経皮経肝胆ドレナージ、インスリン注射、膀胱留置カテーテル、腎臓・腎盂洗浄、腹膜灌流、その他です。

在宅療法の視点としまして、あくまで患者の QOL・ADL の向上をさせて疾病の治療をすることがありますが、治療が出来なくても併発症の予防をしなければなりません。寝てる方は避けることが出来ませんので、居室の工夫をしてベッドや布団に物が落ちてこないようにしなければなりません。阪神淡路大震災ではどれだけの方が物や家具が落ちてきたために亡くなったかわかりません。自宅も視野に入れた避難ルートの確認を行い、車椅子でも避難できるようにしておかねばなりません。また、家族だけで避難させることは難しいと考えられ支援班との連携を図らねばなりません。在宅酸素療法等の重度なケアを必要としている場合は、避難所での対応も行わねばなりません。

支援のあり方は、家族、医療関係者、介護関係者、自治会、民生委員、福祉コミュニティー、行政との連携で、お互いが情報を共有する必要があります。

### 災害時の在宅療養者の支援対策のポイント

#### I. 在宅療養者情報の把握

在宅療法者情報の収集は原則「手上げ方式」で行うが、明らかに不十分な場合は行政が中心となった「関係機関共有方式」で行う必要があります。入院・入所・転居に伴う情報更新も必要です。

#### II. 災害等に関する情報伝達体制の整備

地震に備えての避難ルートを作っていたけど

も、津波だった、土砂災害や風水害であったという場合には避難ルートを変えなければなりません。そういった場合の伝達方法のシステムを作っておかねばなりません。

### Ⅲ. 在宅療養者に係る訓練

机上訓練以外に関係者が集まって一人一人の訓練を行う必要があります。

## 災害時の在宅療養のポイント

### I. 災害前の対応

患者の自宅から避難の必要な場合には、搬送先の避難所・支援病院・介護施設や、搬送を担当する責任者を決める必要があります。自宅から避難しない場合にも、かかりつけ医への連絡を必ずしていただくことと、ポイントとして糖尿病や高血圧の患者には1週間分くらいの予備薬を持たせておく必要があります。

### II. 災害後の対応

自宅外へ避難された場合には、患者に関わる多職種の早急な訪問がポイントで、高度な在宅医療を要する患者の場合は非被災地区の病院、介護施設への搬送が必要です。同時に「心のケア」のカウンセリングをスタートしなければなりません。自宅におられる方に対しても同様です。

### 災害時要援護者への対応

神戸市では、災害時の医療体制のあり方では、広域災害時に各先生が駆けつける病院または学校を指定しており災害時要援護者のリストを作り更新するようになっております。また災害時要援護者連絡票を作って区の医師会に送ることにより、要援護者がどこに行ったかわか

るようにしております。

平時・災害時にかかわらず在宅療養を継続するために必要なことは、在宅患者の関係者(家族、医療関係者、介護関係者)の連携と情報の共有と、地域ぐるみの支援です。

最近経験した東灘区の不発弾処理のため静かなる訓練を行いました。3月4日に半径300m以内の住民のうち歩ける人を避難させました。残ったのは在宅の要援護者でした。そこでまず行政は個別にこの地区(約4,500世帯、約10,000人)の寝たきり者の調査をしました。しかし、医師会でもう一度リストを作ったところ、行政で把握したのが34症例であったのに対し、医師が把握したのは36症例でした。東灘区だけではなく近隣の灘区や芦屋市の医師会の先生にもお願いしました。医師が参加しての情報の共有化が重要であることが立証されました。

### 大災害現場でのコーディネート隊創設

百数十名が死亡し五百数十名が負傷したJR福知山線の脱線事故現場では、医療チームがたくさん入りトリアージポイントが2カ所できるなど混乱を極めました。これを教訓に神戸市は多数の医療チームが派遣される災害現場での救急活動の指揮を執ったり、調整したりする大規模災害対応救急隊「ブルーキャット」を2006年度に創設しました。現場に駆けつけて各医療チームの配置を指示し、救急隊の配置やヘリコプターのスタンディングポイントなどの現場でのアレンジを行います。現場でのコーディネート役に特化したチームは全国でも初めてで、これからの活躍が期待されます。

【文責:JF3JON 田中 憲児】

# 記念講演: 大災害における非常通信

アマチュア無線局 JA3AA 島 伊三治 OM

震災の朝、直ちに東京の原会長からも連絡があり、アマチュアとして何をすべきなのだろうかの話し合いをしたのですが、ニュースで報じられる限り、壊滅的な被害が出ている状況が明らかになってきているので、アマチュアとして今直ちに飛び込んでいって何かするというような状態ではなさそうだ。しばらくは情報を収集することに努力し、その結果にもとづいて今後の行動を計画しようという結論になりました。

私は大阪市から南東方向、近鉄南大阪線の沿線に住んでおり、震災の朝も午前7時過ぎ、何時ものように職場に出るべく家を出ました。近鉄で阿倍野橋まで出たのですが、これは何時ものように動いていました。しかし、阿倍野から先の JR 環状線も、市営地下鉄も運転中止で、先がトラブっているので人がはげず、ホームには人があふれており、時折、電車は入ってくるものの、前に進むことができない状態でした。仕方なしに目的地に向かって徒歩を覚悟で街路に出ると、たまたま市バスが動いているのが目にとまり、行けるところまではこれを利用し、後は徒歩に頼ることにしようと、普段とは全く違ったルートを使いながらも、何とか昼前には勤務先にたどり着くことができました。

バスから見ても、歩いている途中に周りを見渡しても、大阪の街並みを見る限り、それらしい被害が全く感じられませんでした。

勤務先は38階建て、150m高のビルで、私の職場は28階にあります。エレベーターは一部分動いているものもあったが、私の所へは全部歩いて上がることを余儀なくされました。オフィ



スに入ると机の引き出しは全部飛び出し、家具調度は倒れ、書類は床一面に散乱した状態でした。

私の会社はプロの移動無線を扱う仕事をしており、私は MCA 事業の部長を務めております。まず、会社の業務である MCA の制御局の状態を確認することにした。

MCA という言葉を始めてお聞きの方があろうかと思っておりますので、ここで簡単に説明します。これは半径 20~30km のサービスエリアを持つ大ゾーン方式の業務用移動無線システムで、一定数の周波数を多数の利用者が共同で利用する Multi Channel Access 方式を採用していることから MCA または MCA 無線と呼ばれています。利用料は定額、一斉通信、グループ通信が可能で、主に運輸、製造、建設関係などで使用されています。例えば大阪市バスのバスロケーション表示(近接情報)には MCA が利用されています。

MCA では全ての通信が制御局を中継して行われるので、制御局さえ生きていれば基地局と移動局だけでなく、移動局同士の通話も可

能です。阪神大震災でも神戸局(鉢伏山)、六甲局(六甲山)等の何れの制御局も施設に被害がなく、広いサービスエリア内の通信が確保され有力な通信手段でした。

さて、震災当時、制御局の置かれていた阪奈県境の生駒山、六甲山、淡路島、鉢伏山の4箇所が、いずれも地震の圏内にあり機能が心配されていたのですが、テストの結果、幸いにも全て正常に動作することが確認できました。続いて職員の安否の確認をしたのですが、この作業は電話がつながらず困難を極めました。公衆電話がつながるといふことで、いちいち28階から地上階までおりまして、長い列に並び、それでも何とか全員の無事を確認することができました。懇談の結果、当面、行政、電気、ガス事業者の通信確保を支援するべきだと結論しました。対策として、前年に広島で開催されたユニバシアードの大会の際に使用したMCAのハンデーター機が110台、現在は使われないまま次期開催地の福岡で保管されているので、これを神戸の民生局に貸与、使用に供することを決定しました。災害地での機材の調達には困難というより、大災害の場合には不可能と考えるのが常套でしょう。とにかく緊急事態なので直ちに福岡にある分を発送するよう指示しましたところ、翌18日の午後には神戸に届けることができました。以後の追加調達につきましても困難はあったものの、メーカー及び関係各方面の協力により、最終的には1143台を利用に供することができました。利用は多岐にわたりましたが、なかでも大阪ガスが700台と最もよく利用していただきました。一概に震災直後の非常通信と申しますが、それにとどまらず、以後長期にわたり災害援助物資の搬送や避難所間の連絡などに利用されました。

あまりの激甚災害に、発生当初、活動に窮したアマチュア無線も、震災発生後4日が経って20日には東京からハンデーター機200台が届き、いよいよ活動が始まりました。JARLと郵政省との申し合わせにより、非常時の緊急的措置として8J3AAAから始まる一連のコールサインが認可されると同時に、JA3RL(大阪市内)、JA3YRL(神戸六甲山中腹)などの基地局が開設され、それらの元に各ハンデーター機が配属される形が出来上がっていきました。各区役所など、地域の拠点にも子機を配布し、使用を勧めましたが、なかには配布を断るところもあり、よく事情を確かめると、アマチュアがいる拠点では導入がスムーズに進み、そうでないケースでは抵抗があったように感じました。その利用は非常用物資の搬送、誘導、避難所間の連絡など多岐にわたりました。

ただ、今回のように都市部で発生する激甚災害で、発生当初からのマニュアルに組み込まれる通信設備というものは、一連の緊急援助物資に組み込まれるかたちで、予め用意されていることが重要であり、更にその機器は、全てが同一の形のものであり、使用に際しては単純なものでなければならぬと言うことを痛切に感じました。その点からいうと現在のアマチュアのリグはあまりにも多機能化し使用法が複雑であり、災害時むきではないと思われます。

即ち、災害時に非常用として使う無線機は、均一化された同型ものであることが便利であり、今回も災害後、アマチュア各局から余剰のリグを集めて回るといふ話もありましたが、これでは本当の緊急用にはなりにくいと思われました。また、たとえ緊急用に用意されているリグであっても、日常的に使い込んでいなければ、使用にも戸惑いが出るし、電源の電池ひとつにしても

長期保存されていれば、役に立ちにくいのが実情であります。

また当時ボランティア活動というものに対する認識も確立されておらず、交通費、食事、二次災害時の保証など考えられないような要求が出てきて驚かされました。大阪府など行政機関がボランティア活動に出た人の二次災害に対する保険制度を導入してくれ、気分的にはやや楽になったのは事実でした。実際にこの制度が適用されたのは2例で、いずれも軽症であったため大きな問題にはなりませんでしたが、ボランティア活動が終了するまでは心配な日が続きました。アマチュアのボランティア活動参加者は延べ10000人をくだらなかつたであります。あらゆる種類の活動に協力いただいたことに、心から感謝いたします。

しかし、神戸サイドは大災害地であっても、海をはさんだ対岸や近郷では、さしたる被災もなく、日頃と変わらない生活が営まれており、地域間格差も手伝って、被災地で交わされる非常通信に対する配慮や、分別のあるハムの運用に欠ける一部の人達の行動があり、強い違和感を持たされたことは非常に残念なことでした。

携帯電話も普及し、一般には連絡は携帯ほど優れたものは無いというイメージが強い世の中です。しかし、なみはや国体夏季大会にMCA無線機を提供したとき、花火師からこれほど便利なものはないと好評を得たことがありました。無線機というものは携帯電話と違い一斉通報ができる強みを持っています。花火の打ち上げにはこの機能が何よりだったようでした。今回の災害通信においてもこの強みは十二分に発揮されたと思っています。

以上述べてきましたように、近年、市街地

で発生する大災害の場合には、状況は早期に、しかも、正確に把握されるようになっていきます。そのため通信は、非常通信も無くはありませんが、多くは、その後もかなり長期にわたって続けられる、復興支援のための通信が圧倒的に多くなっています。このような用途には、同じ使い勝手で、しかも簡便に使える小型無線機を大量に被災地に投入することが、最も有力な通信網確保の手段と結論付けられるでしょう。しかし、最近ではメーカーでもあまり大量に通信機を作らなくなっている現状もあり、その点が新たな難問となりそうです。また、交通の便の悪い山頂などに設置された基地局では、商用電源が途絶えると予備電源は2日と持たないケースもあり、発電機を使用する場合の燃料の供給には地理的困難を伴う箇所も多く、この点も今後の課題となるであります。

## 質疑

**JA1FF 国府田先生** 悲しい話だが、東京でも非常通信の訓練をすると、聞くに堪えない妨害電波を発射する局がいて困ることがあるのですが、神戸のときは如何でしたか。

**JA3AA 島 OM** 神戸のときも当初、これがアマチュアかというような醜い電波を発射し、妨害する局が沢山出て大いに苦労しました。これ等の局に対し、近畿電監は移動監視車を連日出動させ非常通信を妨害する局を重点的に取り締まってくれました。一方、大阪では900MHz帯パーソナル無線の不法局に対し直接電波を出して注意を促す実験局を運用し成果を得たことから、不法無線局に対し直接電波による規制(警告、注意)を行えるようにした電波規制用無線局が誕生し、アマチュアバンドにも対応してくれるようになりました。

**JK1AIN 中村先生** 神戸の時は電波法第74条の適応された通信は行われたのですか。

**JA3AA 島 OM** ありませんでした。即ち法的な命令で行われた通信はなしでした。

**JH3GOB 稲見先生** 私は震災当時も今も神戸に近い三木市に住んでいます。地震のあと呼び出しチャンネルで呼びかけたのですがメチャクチャ妨害されて目的を果たせませんでした。どのようにお考えでしょうか。

**JA3AA 島 OM** JARLでは不法無線局対策委員会を立ち上げ、不法無線局の実態調査を行うとともに、違法行為の一扫に努めています。震災当時は大阪湾のベイエリアの開発工事が盛んで、工事車両にアマチュア用無線機を搭載した不法局が多かったことに一因がありました。現在では携帯電話の普及などによりアマチュアバンド内の不法局は減少しています。携帯電話の普及台数は当時、700万台程度であったと思いますが、現在は1億を超えていると思います。これだけの普及台数になると、部分的に被災しても、無線を利用する件数は減るので結果的に妨害する局も少なくなるであろうと思います。また、総合通信局では、電波利用料を投入することにより、電波管理システムの機能が大幅に向上しており、12年前の阪神大震災時のような妨害には万全の対処をしてくれるこ

とと思います。

**演者 JA3AA 島 OM のアマチュア無線歴**  
昭和6年(1931年)のお生まれです。

昭和27年8月27日(1952)JA3AA免許JA1AB,JA1AF,JA1AH,JA1AI,JA3AAの5局が戦後初のアマチュア局として免許された。

昭和30年4月25日(1955)移動局免許される。移動するアマチュア局として国内初の免許、その年の5月連休に白馬岳で移動運用。

昭和39年4月(1964)1.880KHz国内初の許可を得る。1.9MHzバンドの前身は、1.880KHzの1波のみでした。VS1LPと海外初QSO。

昭和45年3月(1970)大阪万博で特別記念局JA3XPOを開局、運用。EXPO局委員長として6ヶ月間の長期運用を指揮する。

他に多数のアマチュア無線関係の役職をお勤めいただいております。

# 大阪総会 T N X

## JH3GOB 稲見 修(兵庫県)

医学会総会が大阪で開かれMARS総会も在阪Medical Hamのおかげで素晴らしい会合でした。いろいろ大変だったと思いTNX。8J3GAJMC局のアクティベーターにも頭が下がります。神戸と大阪近いようですがあまり行き来しない私です。たまには出掛けるのですが車で大阪環状線に乗って堺方面におりようと思って大阪の人は進路を絶対に譲ってくれません。3周してやっと降りることが出来ました。いつも神戸で駐車して電車で出掛けるのが習わしです。と言うことで今回も阪神電車。

総会は言うに及ばず、やはり大阪の食べ物でした。日曜日のエクスカージョン ヨカッタ、ヨカッタ、桜の花も素晴らしかった。あちこちの見物で最高に感動したのはあの石舞台、写真やテレビではよくお目にかかりますがあのスケールの巨大さ全く分かっていませんでした。世界のストーンヘンジにも負けない立派な遺跡です。ガイドさんが建造方法を色々述べておられましたが、「昔々宇宙の神様が機械人間を使って石を切り出し此の地に運び込み設計に従って建造した」と想像しながらガイドさんの説明は上の空でした。立派な建造物です。

デザインを考えたのが、人間なら凄い。ほんとは弱い関節や躯幹を機械が一部担保して人間の弱いところを巨人のそれに变化できたら、大きな物体を自分の思い通りにアレンジ出来る。自分の庭に石舞台もどきを一人で作りたいですね。庭師さんに頼ればできて自分の考えでなくなる、色々修飾がつかますから。何でも自分で作るのが楽しいですね。半田付けに熱中

して喜んでいたら家内にただくっつけ合わすだけ編み物と同じ様. . . . .しかしそれは自分一人の作品です。

町の中で方角が分からなくなったらお空を見ましょう。衛星アンテナが教えてくれます。奈良の遺跡では衛星アンテナはなかった。一寸ドッチ向いてると聞くわけにもいかず残念至極。

最近物作り(半田付け)やっていると考えることあり、昔は何かを思ったら手元にある材料ですぐ作り始めた。徹夜も平気。でも出来上がったとき50%もうまく働かなかった。それに懲りずトライ トライ、その内 何とかなることが多かった。その喜びを何に例えようか暫くはそれを使って交信を繰り返していました。飽きてきたらやめ、. . . .

最近は何かを計画したらまず図面、回路そして部品、何回もチェック。出来たと思っても又しばらくおいて調べる。おかしなことが出てきたら又チェック。行動性は全く低下しているがいざ半田付けが終わり動作試験運用と進んでいくと徹夜、徹夜と頑張った場合と比べ完成日時はそんなに変わらない。そんな気がしませんか？最近もSSTVで送受信機とマイコンを接続する機械を作りました。すぐ作り始めないで抵抗、コンデンサー、IC、そしてトランジスターをチェック、電源の線や入出力用のプラグも完全に揃える。半田を使わず紙の上に完成回路をイメージして長い間製作と言う行動をしない。これが高年齢ハム人間。しかしこうして完成した回路はいつものことですがほとんどの場合うまく働きます。以前はエイヤと作ってすぐ通電したくなる。

スイッチON。抵抗から煙り、石が一瞬のうちに成仏等々よく経験したことが最近はあまり起こらなくなった。ぼけ防止にもなるのではと頑張っていますが最近の進歩のおかげですべての部品

がどンドン小さく成っていく指先では全く保持不可能、現在は割り箸利用のホルダーを製作、使用しています。竹の割り箸より木製が良いようです。

## 第31回MARS総会に参加して

JR1CDJ 大久保 嘉明(埼玉県)

折しも桜満開の大阪において、平成 19 年 4 月 7 日(土)第 31 回 MARS 総会が開催された。4 年に 1 度開催の第 27 回医学会総会の交歓行事の一環でもある。

### 【記念局運用】

今回は特別に医学会総会記念局も開設され、8J3GAJMC のコールサインで運用された。JH3AEF 局の大変なご努力が実り、MARS 総会前日までは大阪城ホールの一室を借り切って精力的に交信された由。総会でも別室にて時間ぎりぎりまで運用された。



既に 3000 局くらい交信されたようで、これから 5 月末日までリグ持ちまわりで運用されると、

軽く 5000 局を超えるかも。

### 【MARS 総会】

待望の 7 日土曜日、午前の診療を終えて東京駅に直行、新幹線「のぞみ」に乘車した。東京は曇り空だったが、大阪に近づくにつれて雨模様となった。会場は JR 大阪駅構内の「ホテルグランヴィア大阪」なので傘いらず。総会受付で手続きを済ませ、ホテルにチェックイン。

総会は 17 時 15 分、JH7QFA 局の司会で始まった。JA7AOM 及川忠人会長の挨拶に続いて、JA3LDH 高井康之・地元大阪府医師会理事が歓迎の挨拶、次いで議長に JI3CIN 局を選出した。

JL1BGP 局の庶務報告が行われたあと、サイレントキーとなられた 3 局に黙祷を捧げた。JR3HHM 故真下英夫 OM、JR2IZO 故中村仁 OM および JA3ARY 故大門茂行 OM 各局を忍んで、JA3ASU 局がメモリアルキーを打電。この後 MD ネットの事業報告が行われたが、ラウンド QSO で名進行役だった JR2IZO 局のあの朗らかな声が聞けなくなって寂しい限り。

事業報告では、それぞれ MD ネット

(JH7QFA 局)・MARS ニュース(JF3JON 局)・アワード(JA1KXT 局)・ホームページ(JH3TCC 局)、続いて会計報告(JL1BGP 局)、会計監査報告(JA1FF 局)、アワード年間賞抽選(JA1KXT 局)、事業計画案など型どおりの審議がなされ、最後に JH3AEF 東條純一・前会長の顧問承認と新入会員紹介で総会を終えた。

### 【講演会】

18 時から、「阪神大震災における医師の初動体制」について本庄昭・神戸市医師会副会長、「大災害における非常通信」について JA3AA 島伊三治 OM が講演された。

災害直後にボランティアが駆けつけた場合、どこでどんな救援が必要なのかの指揮系統確立が大事。さらにボランティアに来てもらっても、衣食住について現地に依存されるのでは迷惑以外の何物でもない。医療についても同じことが言えて、医師派遣も大事だが、トリアージで選別された患者を引き受けるため近隣の病院で待機してもらう方が肝要らしい。やはり自衛隊みたいな自給自足可能な集団が応援に行くのがベストと感じた。

また非常通信中の妨害電波がいつも問題になり、アマチュア無線家のモラルが問われる。

### 【アトラクション】

プロの落語家、笑福亭瓶太 JO3KHA 局によるユニークな無線落語を聞かせていただいた。発端になった田中透 JARL 大阪府支部長 JR3QHQ 局による HAM への誘惑に始まり、初めて聞いてちんぷんかんぷんの「Q 符号」、4 級アマ受験騒動、落語界初の無線落語制作珍談など、フロアの QHQ 局とアドリブをまじえての大奮闘だった。

ちなみに「JARL NEWS 2006 年秋号」に、落語並みに面白い JR3QHQ 局の「笑福亭瓶太さんの 4 アマ合格体験記」と、瓶太さんに受験指導した JA3CHS 小永井貞夫 OM の苦労話が紹介されているのであわせてご一読のほどを。



### 【懇親会】

その後、全員で記念写真)に収まり、懇親会で歓談した。「D-STAR」について JA3ASU 局の説明、8J3GAJMC 記念局の QSL カードの配布(JA1KXT 局)などがあり、J13CIN 局からミカンのおみやげを頂き散会した。



### 【大阪城と医学会閉会式】

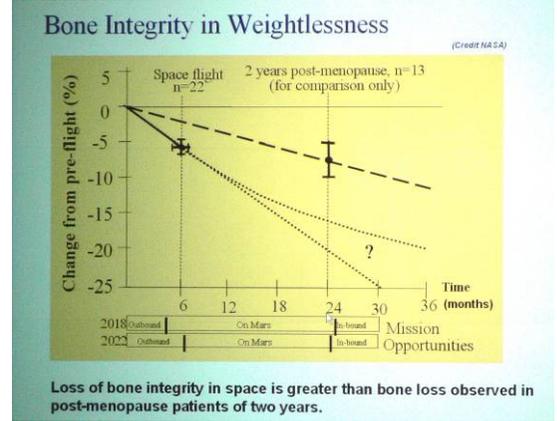
翌日はエクスカッションを失礼して、医学会総会へ。ホテルニューオータニ大阪にてコングレスバッグを受け取り、桜満開の大阪城を遠望。

10時から大阪城ホールで一般公開「いのち・ひと・夢」展示見学とニューオータニでの発表を拝聴した後、国際会議場へ移動。



閉会式では、まず「宝塚歌劇団・月組」の華麗なレビューを堪能。次に本総会のテーマ「いのち・ひと・夢」の締めくくりとして「宇宙飛行最前線」について、向井千秋宇宙飛行士の特別

講演。シャトル発射時のエピソードや、「火星旅行など長期間の無重力環境では、地上の閉経後女性よりも骨塩減少が急速になる」など、興味ある話を拝聴して会場を後にした。



2007年4月7日 第27回医学会総会 日本医師アマチュア無線連盟 於 ホテルグランヴィア大阪

# 奈良「あすか」への旅

JL1BGP 井上 文正(東京都)

平成19年4月7日、ホテルグランヴィア大阪において、第31回日本医師アマチュア無線連盟総会が開催され、翌4月8日に奈良「あすか」へのバス旅行が行われました。前日、大阪は雨降りでしたが、雨が上がり、絶好の旅行日和となりました。総勢27名の参加者を乗せて、午前8時過ぎに大型バスでホテルを出発。JH3AE F東條先生の案内を聞きながら、阪神高速から南阪奈道路を経由して奈良盆地に入り、約1時間で目的地の明日香村に到着しました。

## あすか

「あすか」は現在の奈良県高市郡明日香村を中心として、大和平野の東南部一帯が飛鳥地方と呼ばれていた地域で、飛鳥時代の遺跡が多数存在しているところです。あすかの名前の由来については諸説がありはっきりしていません。

飛鳥時代とは、推古天皇が即位した6世紀の終わりから、元明女帝が710年に京に都を移すまでの約100年間を指しています。中国・朝鮮からの仏教伝来に伴い、古墳時代から脱皮し、新しい文化を発展させた時代であり、政治、経済、社会ともに大変革が試みられ、天皇制律令国家成立という意味において、日本国家成立の時代ということが出来ます。

## 石舞台古墳

バスは最初に石舞台古墳に到着。ここでボランティアガイドの山崎さんと会い、明日香の案内をしていただくことになりました。



石舞台古墳は、7世紀の初め頃に造られたものと推定され、この地で政権を握っていた蘇我馬子の墓ではないかといわれています。堀で囲まれた方墳で、覆っていた土がなくなり、中央部に横穴式の石室の天井部の巨大な石が露出した姿になっています。石室は幅約3.5m、高さ約4.7mで大小30数個の花崗岩が使用され、石の重さは最大約77t、総重量が約2,300t、玄室の大きさは長さ約7.6m、幅約3.5mという大規模な古墳です。



周囲は桜、桃、菜の花が満開となっていました。

## 飛鳥寺



石舞台古墳から車で約5分ほどの田園の中にある飛鳥寺は、606年蘇我馬子の発願によって建てられたと伝えられる日本最古の仏教寺院です。この寺の造営には百濟から渡来した僧侶、寺大工など多くの人々が関わっており、当時は、現存している寺よりも数倍大きな規模だったことが発掘によって判明しています。本尊の釈迦如来は「飛鳥大仏」の名で親しまれており、中国北魏の様式で面長で、彫りの深い顔立ちをしています。



## 蘇我入鹿首塚

飛鳥寺の西門を出た畑の中に、蘇我入鹿の首塚といわれる五輪の塔がある。蘇我入鹿は、後世の伝説によれば、超自然的な能力を備えた大悪人で、大化の改新の時もただ殺されるだ

けではすまず、切られた首が飛び跳ねたり、人に食らいついたりしたとかいう伝承はかなり古くからあったらしい。鎌倉時代に建てられた五輪塔が、入鹿の首を埋めたとされるのも、人々に入鹿への恐れがあるからであろう。



さらに西の方角には、明日香一円を眺望できる標高145mの小高い「天檜丘」をみる事が出来る。蘇我蝦夷、蘇我入鹿親子がこの丘に大邸宅を建てたが、中大兄皇子、中臣鎌足によって入鹿は誅され、蝦夷はこの邸に火を放って自害した。この邸跡とされているところが後に発掘されている。現在は国営公園の一地区として整備されている。

## 橘寺



仏頭山の北麓に位置し、片側にある川原寺と対峙している。伽藍創建時の様子ははっきり

していないが、一般的に聖徳太子が生まれた寺とされている。数度の火災にあい消失したが再建され、元治元年に現存の建物が再建されたとされている。講堂の天井には極彩色の花の絵が多数描かれている。



境内には、二面石と呼ばれる石像物があり、その顔は、それぞれ人の心の善悪を象徴しているといわれている。

### 高松塚古墳

直径23mの二段築成の円墳である。1972年の発掘調査によって、壁面に彩色画が描かれていることが判明した。極彩色の人物が描かれており、当時の中国や朝鮮半島にみられる画題が使用されていることから、当時の東アジアにおける葬制を考える上で重要である。



壁画を保存するための方策がとられていた

が、最近の調査でカビによる損傷が激しいことが分かり、修復のために古墳の解体作業が始まっており、今後約10年かけて補修されることになっている。



壁画は、画家によって約2年かけて精密に模写され、高松塚壁画館に展示されている。

飛鳥の寺院や遺跡を見学した後、昼食をとるために奈良ホテルに向かった。明日香から三重県名張市までは約20kmほどの距離で、亡くなられたJR2IZO中村先生はよく明日香に来ることがあり、今度の総会でみんなを案内することを楽しみにしておられたそうです。

途中天理教の本部がある天理市を通り、約1時間で奈良ホテルに到着しました。

### 奈良ホテル

奈良ホテルは、奈良公園内の荒池のほとりに建つ創業98年(平成21年が100周年)の老舗ホテルで、総檜作りの2階建て。現在は新館も併設されている。奈良公園の緑に囲まれ、庭の桜は満開となっていました。落ち着いた雰囲気の中で、昼食は本格的フランス料理をいただきました。館内には有名画家による絵画が多数飾られており、いつでも観賞できるそうです。



ホテルの辻販売推進部長から説明があり、98年の間に皇族をはじめ国内、海外からの著名人が多数宿泊しており、随筆や小説にもたびたび登場しているとのことでした。戦後の一時期、アメリカ軍に接収されていたこともありましたが、ほとんど創業当時のまま現在に至っているとのことです。



天皇陛下が泊まれるスイートルームは警備の都合上一般に公開されていませんが、その他

の部屋は開いていれば見学できるとのことで、その中の一部屋を見せてもらいました。広い部屋ではありませんが落ち着いた雰囲気、古くから使われている調度品もそのまま使用されています。一泊2万円ぐらいで宿泊できるとのことでした。

昼食後の休憩時間に、記念局8J3GAJMCの移動運用が行われましたが、余り時間がとれませんでした。

奈良ホテルを出発して大阪へ帰る時間になりましたが、行楽日和ということもあって奈良市内は大渋滞となっていました。平城京跡の朱雀門の前を通過して、第二阪奈道路に乗り、生駒トンネルを抜けると東條先生の地元東大阪市になります。残念ながらJH3AEF局のアンテナをみることは出来ませんでした。

高速道路はほとんど渋滞がなく、大阪城公園、中之島一帯をみながら順調に走行し、午後4時半過ぎに新大阪駅に到着し解散となりました。

満開の桜をみながら明日香を旅することが出来、有意義な一日を過ごすことが出来ました。

総会の準備をしていただいた東條先生に感謝いたします。大変ご苦労さまでした。ありがとうございました。

## 春たけなわ 飛鳥路を訪ねて

JL1XWR 井上 喜代(東京都)

カーテンを開けると夜来の雨も上がり気持ちの良い日差しがのぞいていました。FF先生曰く「MARSのエクスカージョンは概ね晴れる」

とのこと。皆さんの日ごろの行い?の賜物でしょう。いつもの通りデラックスな大型バスに乗り込み土屋先生のお見送りを背にホテルグランヴィ

ア大阪を出発したのは午前8時を回った頃でした。東條先生のソフトな語り口の名ガイドで一同目を右へ左へと移し(ICOM本社、960万世帯を網羅するNHK AMのバーチカルANT etc)車窓に移り変わる景色を楽しみながら阪神高速から南阪奈道路へと順調にバスは進みます。約45分で奈良盆地 羽曳野市へ入ると左右の景色は一変してビニールに覆われたブドウ畑へと変わります。羽曳野はブドウの産地とすることでこれも新しい発見でした。途中、大和3山はかすんではっきり見えませんでした。バスはいよいよ日本文化が花開いた飛鳥の里へ到着です。バスから降り、出迎えて下さったボランティアガイドの山崎さんに先導され、満開の桜や菜の花を愛でながら石舞台古墳へ。私が初めてここを訪れたのは中学校の修学旅行でした。時は流れ周りはすっかりきれいに整備されて、まるで別の場所のようでしたが石舞台だけはそのままの姿で迎えてくれました。7世紀の初め頃築造され被葬者は不明ですが、この土地の有力者であった蘇我馬子の墓ではないかといわれているそうです。総重量約2300tという石の古墳を当時の人々が作っている姿を想像することが出来ますか？あらためて人類のすごさ、力強さを感じます。

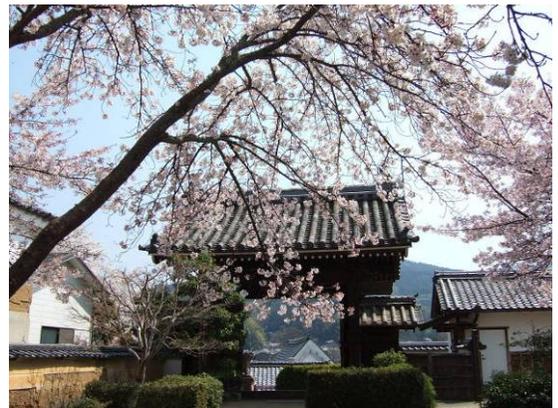


まわりの満開の桜を堪能しながら少し離れた

飛鳥寺へ移動します。桜の季節の観光地、その上花祭りとあって大勢の観光客が訪れており、説明を聞く間もおおぜいの人々が行き交います。606年に蘇我馬子の発願で建立されたという日本最古の仏教寺院、飛鳥寺の釈迦如来は『飛鳥大仏』の名前で親しまれています。



ややほっそりしたお顔の大仏はなかなかハンサムです。花祭りの甘茶をいただいて次は橘寺へ。明らかではありませんが聖徳太子がお生まれになったといわれているお寺です。本堂が改装中で全体の外観が見られなかったのは残念でしたが、桜や菜の花に囲まれこじんまりしたきれいなお寺でした。



最後の観光地はかの有名な高松塚古墳です。ここもまた周りが公園となり人々の憩いの場となっていました。きれいな緑の芝生広場では家族連れがピクニックのお弁当を広げ、またそ

のとなりでは子供たちが駆け回っており、この地に眠るいにしえの人々は眠りを覚まされ当惑顔かもしれませんね。最近のニュースにもありましたが、あの美しい壁画にカビの大量発生が見られ、修理が始まったそうです。かなりの時間がかかると同時に完全な改修は難しいとも言われているようで本当に残念です。

日本のふるさとをたっぷり感じた後、最後の目的地、奈良ホテルへ向かいました。2009年に創業100年を迎える奈良ホテルは、30000平方メートルの広大な自然公園に囲まれた日本のトラディショナルなホテルです。外観は純和風桃山御殿風総檜造り、内装は和洋の調和したモダンで格調高いもの、歴史的にも芸術的にもとても素晴らしいものです。皇族が奈良を訪問される折によく宿泊されるホテルとしても有名ですが、ホテルの長い歴史の中に世界中からのVIPをお迎えしたことも多数あったようです。



フレンチの昼食をいただきながらホテルの辻部長さんにその折のなかなかレアなエピソードをたくさん披露していただきました。オードリー・ヘップバーンのお気に入りと一緒に写真を撮ったというシャンデリアや、美智子皇后様がおいでになると必ず立ち止まられてご覧になる絵の

話しなど明治、大正、昭和、そして平成と時代と共に歴史を見続けてきたホテルでステキな昼食をいただいたことは皆様の記憶にも残ることと思います。



楽しい時間はあっという間に過ぎ、バスは渋滞の奈良市内を抜けて再び高速に乗り新大阪駅へ。再会を約束して散会となりました。

今年は例年に無く心寂しい総会でもありました。サイレントキーとなられた皆様のご冥福をお祈りしながら、今後のMARSの益々の発展をお祈りしたいと思います。

仲井間先生の差し入れの八朔の美味しかったことも最後に付け加えさせていただきます。ご馳走様でした。



# 8J3GAJMC 第27回日本医学会総会記念局 顛末記

JH3AEF 東條純一

4年に一度の日本医学会総会では、毎回、各種の交歓行事が開催される。我が日本医師アマチュア無線連盟も、その年には、全国医師アマチュア無線大会など特別の名前を冠した総会を、医総会の地で開き、シンポジウムなどの特別企画を実施してきた。この交歓行事には、多くの同好会が参画する。卓球、剣道、柔道、ラグビー、ジョギング、囲碁、将棋、軽音楽、フィルハーモニーなど。フィルハーモニーなどは開会式に花を添えるなど、総会そのものの中で活躍の場を持つが、大部分の同好会は自分達の趣味を大いに楽しみ、親睦の実をあげてきた。

2006年のMARS横浜総会で、次年度は医総会の開催地、大阪と予告され、在阪のMARS会員には詳細が明らかにされるのが待ちどろしかった。非常に心強かったのは、JA3LDH 高井OM, JA3WRK 井藤OMの二人ものMARSメンバーが府医師会の理事としてご活躍中であることで、交歓行事の情報もいち早くもたらされた。何度も開かれる世話人会で、それぞれの同好会が趣向をこらしたイベントの予定を発表するなか、MARSもあとをとらじと記念局の開局を打ち出した。他同好会が参加者数100人、200人の予定を表明するなか、MARSの50人は一寸少ないのではとの主催者側の懸念が無いでもなかったもので、医総会を対外的にアピールするには記念局に勝るものはありません、目標は5,000局との交信、それも国内に止まらず外国にまで、そして交信のたびに医総会がPRされるのですと大見得をきり、交歓行事の一翼を担

うことが事務局に認められた。

かくして第27回日本医学会総会記念局は実現に向かって大きく踏み出した。当初、記念局のコールサインはJM1ZZM/3でも良いような感覚であったが、10万人規模の医総会の記念局ならとJARL並みの8Jのプリフィックスを獲得すべく検討を開始した。記念局の開局、希望のコールサインの取得に当たってはJL3SIK 吹田の西村Drにお骨折りいただき、首尾よく希望どりの8J3のプリフィックスがおりにことになった。同時にサフィックスについては5文字までの使用が可能であるという情報がもたらされた。ここ1~2年、DX局の中にはサフィックスに2007とか、偉大な発明家の名前を取り入れたコールサインが珍しくない。しかし、日本の総合通信局がすんなりとサフィックスは5文字までと先方から提案してきたのにはハトマメであった。最初に候補として考えたのは8J3M、いかにも簡潔明瞭、CONTEST通には真に魅力あるCALLSIGNであろう。しかし、サフィックスは5文字まで等とその筋から言われるとウンと考えてしまった。8J32007M, 8J3007M、、、日本医学会総会 GENERAL ASSEMBLY OF THE JAPAN MEDICAL CONGRESS の頭文字を全て使って8J3GAJMC、、、かくして日本では未だ稀少の全8文字からなる、第27回日本医学会総会記念局8J3GAJMCの申請が提出され、運用期間3月~5月末日までの移動局免許が付与された。同一のコールサインで同時に二箇所からON AIRすることは認められないが、登録されたRIGによる移動運用は自由であつ

た。免許が下りた日から、早速、時間を調整しながら各地での運用が開始された。IOTA 通の JL3SIK 西村 Dr、CONTEST 通の JF1SXY 小方 Dr は東京から、CW マンの JK1AIN 中村 Dr も東京から、AWD HUNTER でもあり DX 通の JA1KXT 相田 Dr は群馬から、そして、1と6と9の3エリアのコールサインを持ち非常にアクティブな JE9RWF 岩堀 Dr は福井から、各地からの運用実績は瞬く間に 1000、2000 と結果を出し始めた。

局の免許を申請するかなり以前より、検討と下見が始まっていたが、医総会期間中の開設地探しは困難を極めていた。当初は医総会事務局に場所の提供を求め、その回答を大いに期待していた。事務局からも予想以上に好意的な回答があり、簡単に解決しそうな感覚で回答をもらった。しかし、その回答に接したとき我々は愕然とした。回答は事務局が各種の目的に用意しているリーガロイヤルホテルの小会議室を提供しようというものであった。その日のうちに現場の確認に向かった。立派な小会議室、電源も、インターネットも使い放題、家具調度も全てそろっています。ガラス窓は広く明るく、2Fにあり出入りにも都合です。総会の期限を過ぎても数日は使用可能ですと案内に出た事務職員は胸を張った。違う違う、全然違う！ 話は振り出しにもどった。

それならそちらの条件に適した場所の提案をと、医総会事務局の対応はあくまでも好意的であったが、我々の求める条件は事務局には理解し難いものであったに違いない。国際会議場、リーガロイヤルホテル、中ノ島公会堂の貸室、大阪府医師協同組合の貸会議室、大阪府青少年会館の貸部屋、、、JL3SIK 西村 Dr も私

も四方八方の開設場所探しが始まった。国際会議場の屋上庭園、公会堂の窓からお向かいの並木の先端に細い線を張らせて、、、だが、いずれも一寸針金を引っ張らせて、屋上階に出て作業をさせてとなると、たちまち NO であった。断られ続けた挙句、一般市民向け展示会場として使われる大阪城ホールのが頭をかすめた。あそこにはとてつもなく広い階上庭園がある。庭の周りには背の高い立ち木も植えられている。あの庭が使えれば ANT は思いのまま張り巡らせることも可能だ。同軸ケーブルさえ引き込む隙間があればシャックとなるスペースはいくらでもある。大阪城公園のまっただ中にありロケ的にも、対外的 PR 効果も最高だ。



大阪城ホールは大阪城公園の一角にある

許可が下りるかどうか大いに不安はあったがダメモトでのり込んだ。その日も何等かの催し物の準備中とかで厳しいセキュリティーが布かれていた。自分の身元を証明するものなどであろうはずも無かったが、自分の顔写真が掲載された交歓行事の案内のおかげで、門前払いされることなく大阪城ホール医総会事務局に取り次いでくれた。局長じきじきの面談となったが、突然の訪問であったにもかかわらず、我々の意図するところを充分理解いただき、通行証とヘルメットを貸与され、直接ホール内を案内、要望

はくまなく聞き届けていただいた。ホールは確か大阪市の施設だったか？ 医総会の期間中、施設全体が貸切になり、示説展示は中央のアリーナ部分のみが使用されるとのことであった。



### 広大な大阪城ホール

我々の希望はこの広大な庭園を利用し ANT を架設すること、それら ANT からの同軸ケーブルを屋内に引き込むこと、同時に作業中は庭に面する出入り口を開錠すること、運用に供するテーブル、椅子、電源の使用許可、運用に当たっては、夜間遅くにわたる可能性のあることなどであった。おおむね我々の要望は通りそのような感触をえ、細部のつめは日を改めて保守、警備の担当者を交えて結論が下されることとなったが、ほぼ全てが思いどおりに動き始めた。事務方にハムのライセンスを持つ者がいたことも追い風であったのであろう。以後、我らハム屋との窓口はライセンスを持つ二人の事務局員があたってくれることとなった。

あまりにも大きなキャンパスを与えられたため、当初計画していた、けち臭い ANT 群は無用であった。1.9MHz から 28MHz までいずれも  $1/2\lambda$  の DP や IV の ANT が何面でも張ることすら可能であった。十分な広さが確保される場合エレメントは計算どおり、先端を折ったり、ましてやコイルを入れる必要もなく、アンテナアライザーを使って、いとも簡単に調整が終了

した。ただ驚いたことは(当然と言えば当然であるが)1.9MHz の ANT 調整に際してのカット アンド トライの長さは30cm,50cmときに1mと長いことであった。都会派の私にはあまり馴染みの無い ANT だけに非常に良い経験であった。その他スペースがあまり期待できないときのためにと用意した 7, 14, 21 MHz のトライバンドバーティカル、WARC バンドを含む移動用短縮ダイポール、V, UHF の GP ANT も望むがままに設置できた。



### 納得の ANT 群

大阪城ホール局をはじめ、明日香村周辺 9ヶ所の移動運用に使用した ANT は大部分がワイヤーアンテナ、それも I.V.ANT であった。今頃何をの感すらする話であるが、この ANT は給電点が一番高いところにあり、全長約  $1/2\lambda$  をフルに使えば、受信効率も低減されること無く、張れば張っただけの効果の期待できる良い

ANT だということを今更ながら実感した。7MHz の場合、片エレメントの長さはわずか 10m 足らず、給電点を 8~9m に一点だけ持ち上げる工夫さえすれば完了である。市街で張ろうとするといかにも厄介な長さに見えるが、一寸郊外に出て張る場合、何と小さい ANT に見えることが、不思議なほどである。万人注視の中で ANT を張るのはやや気の引ける思いがしないではないが、蛮勇を奮って給電点だけは高くに持ち上げよう。あとはエレメントが少々樹木に掛かっというが効率には全く影響は無いようだ。

ANT の調整も SWR 計、デイツプメーター、ANT アナライザー、更に最近の RIG には SWR 計が内蔵されているものも少なくない。私は今ではもっぱら ANT アナライザーを愛用している。アナライザーは微小電力の高周波発信機を内蔵しており、調整に際し RIG の発射する信号により他局に迷惑をかけることもなく、重たい RIG を持ち出す必要もない。片手に握れるサイズで、その気になれば ANT の給電部に持って上がることも容易である。周波数は細部までデジタル表示され、デイツプメーターの比ではない。SWR 測定と同時に給電点インピーダンスも測定表示され、ANT の調整、実験には欠かすことのできない貴重な存在である。アマチュアが汎用する周波数アナライザーには何種類かがあるが、私はクラニシの BR-200 を使っている。たしか 15K 円程度だったと記憶するが、他に MFJ-259 を使う人も多い。

さて、記念局のコールサインがおり JL3SIK 西村 Dr による大阪での運用が始まると、レポートがインターネットにも上がるようになり、ネットを通じての運用案内が効果を表しはじめた。大阪城ホールの ANT 設営現場には、平日にもかかわらず来訪するローカル局もちらほら見られる

ようになり、なかには、記念局からのゲスト OP を是非と意思表示していく局もみられた。



#### 記念局を訪れた 7J3AIF JA3ARK JG3DOR

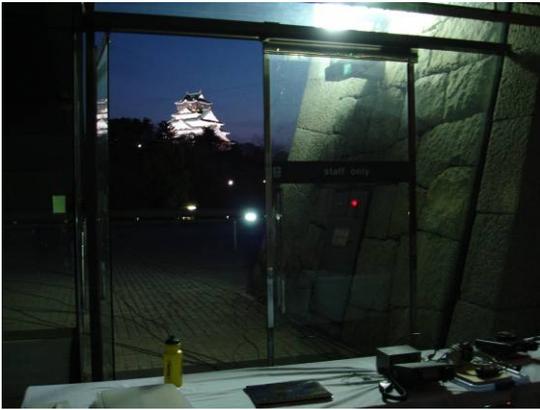
ANT の架設もかなり進み 3 月 28 日からはテストも兼ねた運用が始まった。だが本格的には 4 月 1 日から MARS 総会当日の 4 月 7 日正午まで、6 名の MARS 会員と延べ 5 名のゲスト OP により連日運用された。ホール局からの運用数は 1128 局、内訳は CW235, PHONE878, V&U15, BAND 別では 1.9/46, 3.5/70, 7/979, 10/13, 14/1, 21/4, 144/6, 430/5, 1200/4 であった。



#### OP 中の JA7AOM JA1KXT

4 月 7 日午後、ホール局の ANT 群の撤去は、駆けつけていただいた MARS 各局と小雨の中での作業となったが、いとも手早く完了した。約 1 週間をかけて試行錯誤を繰り返し、思い入れ

の深い ANT 群であったが、夕刻に迫った MARS 総会、総会会場局設営の作業に追われ、感慨にふける暇など全く無かった。



SHACK からは正面に大阪城が

あの広大な屋上庭園に春の日差しを浴びて、にぶく光る 160mDP をはじめとする ANT 群、ライトアップされた大阪城を背景に照明に照らし

だされる ANT 群、桜吹雪の下に立つ WARK BAND のロータリーダイポール、大阪城と相対する位置に据えられたシャック、そこでレシーバーに神経を集中する OP 達、いずれの場面を切り出しても絵になる ONE SHOT であった。そして MARS にとっては忘れることのできない大阪城ホール記念局であった。

4 月 7 日午後、作業は引き続きホテルグランヴィア総会会場局の設営に移った。通例のことではあるが都市型のホテルでの ANT の架設はほぼ絶望的である。今回も、かろうじて ANT 設置の OK はとったが、我々の眼からみて到底 ANT を張るという状態のものではなく、ごく限られた V&U の交信を果たしたのみにとどまった。そして 8J3GAJMC は翌日の明日香村移動にと舞台を移していくのであった。

## 8J3GAJMC 運用報告

JL3SIK 西村 与志郎(大阪府)

### はじめに

平成 19 年 4 月、4 年ぶりとなる第 27 回日本医学会総会が大阪で開催されました。今回、JH3AEF 東條先生をはじめとする MARS メンバーで、交歓行事としてのアマチュア無線運用を企画し、記念局 8J3GAJMC を運用させていただく機会を得ましたので、その企画から免許申請、取得、運用結果に至るまでを総括してみたいと思います。また、今後の記念局運用の参考になればと考え、気づいたことも少し書き加えたいと思います。

### 記念局開設の経緯、免許取得

平成 19 年 1 月某日、東條先生から私のとこ

ろへ一通のメールが届きました。その内容は、4 月の日本医学会総会において記念局の運用をせよ、とのことでした。東條先生は当初、MARS の社団局を JM1ZZM/3 として、会場で運用することを考えておられたようですが、この話をお伺いした時、記念局の特別なコールサインを取得して運用できないものかと、ふと思ったのでした。しかし、この考えに確固たる裏付けがあるわけではなく、ただ漠然としたものであったため、まず実際にそのようなことが可能であるのか、調査しなければならないとも同時に思いました。現在まで許可されている記念局はほとんど JARL が免許人になっていて、JARL が関係しない記念局はごくわずかであり、今回の記

念局開設が可能なのか、若干の不安がありました。そこで東條先生からメールをいただいた翌日早速、近畿総合通信局無線通信部陸上第三課(以下総通)へ出向いて話を聞いてきました。その席で、以下のことがわかりました。JARL が免許人となっていない記念局は開設が可能であり、社団局として扱われるとのことでした。そして通常の社団局開設に加えて、記念局の PR 対象になるイベント(今回の場合は第 27 回日本医学会総会です)の主催者から、記念局開設ならびに PR についての同意が得られている事が必要であり、必要書類は多いですが、少し先が見えてきました。最近の総務省の方はみな丁寧で、とても親身になって相談にのってくれました。今まで許可された記念局の申請書類が太いファイルに挟まれてすべて保管されており、それを見ながらいろいろ考えてくださいました。役所も変わったものです。

さて、次に問題となったのは、運用場所の選定です。医学会総会は大阪市内の 3 か所の会場で同時開催されることになっていたのですが、それぞれの会場を実際に見てまわりました。しかし、いずれの会場もアンテナの設営がネックになり、適切な運用場所が見いだせませんでした。大阪国際会議場の屋上(ヘリポートがあります)にアンテナを設営できればベストだったのですが、屋上は一般人立ち入り禁止だそうで、不可能でした。運用場所の選定が難航する中、無線局の開設申請を早くしないと、免許まで 1 か月かかるので、間に合わなくなります。開設申請には常置場所を決めなければなりません(運用場所が決まっていけないのに!)でした。そこで東條先生と相談、常置場所はとりあえず私 JL3SIK の自宅(大阪府吹田市)とすること、運用開始目標を平成 19 年 3 月 15 日とすること、

希望するコールサインは 8J3GAJMC とすることを決め、書類の準備を始めました。

次に、申請する無線機を決めなければなりません。最初に思いついたのは、JM1ZZM として登録されている、FT-857 を使用できないかということです。しかしこれは総通との話の中で不可能であることがわかりました。同じ 1 台の無線機に常置場所が 2 か所あってはならないという理由からです(FT-857 を使用するには JM1ZZM の廃局申請が必要です)。そこで、我が家にある無線機で使用していないものを探しましたが...ありません。やむを得ず私個人が移動局で申請している、TS-2000SX、IC-7000 他で申請(設備共用)することにしました。これですべての事柄が解決し、晴れて申請できる、と思いきや新たなトラブルが発生しました。ここまでの準備は思いのほかスムーズに進んでいたのですが、東條先生を通して主催者側に依頼していた日本医学会の無線局開設同意書が、2 週間たっても届かないのです。これには参りました。用意した書類は、無線局開設申請書、工事設計書、構成員名簿、約款、無線局開設同意書(日本医学会のものと私の家を常置場所にするため、私自身が書いた同意書)2 通、それと特別コールサインを希望する理由書(別添 1)など多岐におよびました。結局すべての書類が揃って総通に郵送したのは 2 月末、目標運用開始日まであと 2 週間という時期でした。

それから数日後、もはや、3 月 15 日の運用開始は絶望的と思っていたわれわれに朗報がもたらされました。総通から連絡があり、特別に 3 月 15 日に免許を与えてくださること、コールサインは希望通り 8J3GAJMC に決まったことを教えていただきました。実は申請書類を送付

する前に、総通へ書類を準備して一度申請に出向いたのですが、書類不備で返戻されていたのと、事前に相談に行っていたのが良かったようです。コールサインの決定にも曲折があり、総通からは 8J3 のプリフィックスは JARL 局にしか割り当てていないようだから、今回のコールサインは 8N3GAJMC になるかもしれないとの通知を受けていましたが、東條先生が総通側と直接話をしてくださり、8J3GAJMC が割り当てられることとなりました。

かくして東條先生の多大なご尽力により、平成 19 年 3 月 15 日、日本医師アマチュア無線連盟を免許人とする記念局 8J3GAJMC が無事免許され、誕生したのであります。運用場所も、アンテナの設営が容易な大阪城ホールとすることで決定し、あとは電波を出すのみとなりました。

## 運用

実際に免許状が手元に届いたのは、翌日 3 月 16 日でした。早速同日から運用を開始しました。1stQSO は、3 月 16 日 0832z、UA0CFC on 14MHz CW でした。JA 局の 1stQSO はその直後、0832z、JA3DAY on 14MHz CW でありました。診察の合間を縫って、昼休みにはなるべく運用するように心がけました。7MHz CW では、怒涛のパイルをあび、スプリット運用をしなればさばききれない状態でした。7MHz SSB でも、14 時頃から運用を開始すると夕方の診察開始まで呼ばれ続ける、ということが何度かありました。DX 局に対しても意識して運用するよう心がけました。朝早起きが苦手な私は、どうしても夕方の EU 向けの運用が中心になりましたが、EU 各局は 50W の弱い信号をよく聞いてくれ、応答してくれました。

翌週には、JF1SXY 小方先生のもとへ無線機を届け、1 エリアからも運用していただきました。3 月下旬から、東條先生が中心となって、大阪城ホールにアンテナの設営を開始いたしました。会場に来てくださった先生方はご存じと思いますが、会場入り口前の広場周辺に LB 対応の inverted V を展開、階上には 10MHz、14MHz 用の rotary dipole を設営しました。東條先生は毎日昼休みを費やして、会場へ足を運び、アンテナの設営、そして運用をしてくださいました。

3 月 31 日からはゲスト運用も受付し、JG3DOR (私の小学校時代からの友人で、現在大阪府豊中市の病院に勤務、医師ではありませんが...)、7J3AIF、JM3FUW (医師だそうですね) の各局が運用に駆けつけてくれました。

その後 5 月 31 日に免許が切れるまで、1 エリア、2 エリア、9 エリアの各局とともに運用いたしました。東條先生も積極的に大阪府東部、奈良県各地を移動運用してくださいました。

以下は私が運用した感想です。国内各局は 7MHz、10MHz が中心になりましたが、どの地域も比較的よくオープンしていたように思います。ただ、10MHz については季節的な CONDX の関係か、時に 2 エリア、3 エリアなどの近場の信号が弱いときがありました。DX は全体的に低調で、14MHz、18MHz が運用の中心になりましたが、14MHz は EU 各局とも安定して入感していたのに比べ、18MHz はロシアを除き信号が弱かった印象です。もともと、EU 各局は景観上制限があるのか、GP を使用している局が多いという事情も関係していると思われますが...。しかし 14MHz、18MHz とも、ロシアはもちろん、いわゆる奥ヨーロッパ、すなわち G、F、EA、HB9、I、OZ、OE あたりからもた

くさん呼ばれ、交信することができました。一方で夜の 7MHz、10MHz では W が時々呼んでくれました。W では 7MHz においては、7000-7025kHz の間は Amateur Extra class にしか運用が認められておらず(資格によって使用できる周波数が制限されています)、CQ は 7025 から 7030kHz の間で出すように努めました。さすがに east coast との交信はできませんでしたが、west coast はもちろん、Texas など、中南部あたりとも何局か QSO いたしました。

5 月中旬からは Es による 50MHz の QSO にも挑戦いたしました。3 エリアからですと JR6 や JA8 が中心になりますが、CW、SSB そして昔なつかしい AM でも交信ができました。このころになると毎年、ハイバンドの CONDX が上昇するため、21MHz、24MHz、28MHz にも挑戦いたしました。局数は伸びませんでした。とりわけ、今回 28MHz の QSO がなかったことは非常に残念でありました。

最終日の 5 月 31 日は夜診終了後からシャックにはいり、18MHz において QSO を始め 2359z まで EU および JA と交信、8J3GAJMC

の運用を締めくくりました。Last QSO は、JE3AOL on 18MHz CW でありました。

平成 19 年 3 月 16 日から 5 月 31 日まで約 2 ヶ月半、総交信数は 6554 局(国内 5891 局、DX 663 局)でした。オペレーター別の交信数を表 1 に、バンド、モード別の交信数を表 2 にまとめました。

## まとめ

今回の記念局運用は、JH3AEF 東條先生と JA1KXT 相田先生のご尽力がなければなしえなかったものであります。相田先生は 2 月の段階から QSL カードのデザイン、製作までを行ってくださり、私たちのために素晴らしい QSL カードをお与えくださいました。ここに紙面を借りて心から御礼と感謝を申し上げます。もう少したくさんの先生方に運用していただきたかった点が唯一の心残りではありますが、私の準備、PR 不足、不徳の致すところ、おゆるしいただければ幸いです。最後になりましたが、貴重な機会を与えてくださり、また陰で支えてくださった MARS の先生方にも心から感謝申し上げます。

## 無線局免許状

免許の番号	近 A 第 566596 号		識別信号	8J3GAJMC		
氏名又は名称	日本医師アマチュア無線連盟 西村 寿志郎					
免許人の住所	大阪府吹田市竹見台 4-2-6					
無線局の種類	アマチュア局	無線局の目的	アマチュア業務用	運用許容時間	常時	
免許の年月日	平 19. 3. 15	免許の有効期間	平 19. 5. 31 まで			
通信事項	アマチュア業務に関する事項			通信の相手方	アマチュア局	
移動範囲	陸上、海上及び上空					
無線設備の設置場所/常置場所	大阪府吹田市竹見台 4-2-6					
電波の型式、周波数及び空中線電力						
	A1A	1910 kHz	50 W	3VA	145 MHz	50 W
3HA		3537.5 kHz	50 W	3VA	435 MHz	50 W
3HD		3798 kHz	50 W	3SA	1280 MHz	10 W
	A1A	4630 kHz	50 W			
3HA		7050 kHz	50 W			
2HC		10125 kHz	50 W			
2HA		14175 kHz	50 W			
3HA		18118 kHz	50 W			
3HA		21225 kHz	50 W			
3HA		24940 kHz	50 W			
3VA		28.85 MHz	50 W			
3VA		52 MHz	50 W			
備考 1 2 8 0 MHz 帯を常置場所以外で使用する場合は空中線電力は、1 W 以下に限る。						

法律に別段の定めがある場合を除くほか、この無線局の無線設備を使用し、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを盗用してはならない。

平成 19 年 3 月 15 日

近畿総合通信局長



## 別添 1

平成 19 年 2 月 14 日

近畿総合通信局長 殿

特別コールサインを希望する理由書

1. 希望するコールサイン      8J3GAJMC
2. 上記コールサインを希望する理由

平成 19 年 3 月 31 日から同年 4 月 8 日まで、大阪国際会議場などにおいて、第 27 回日本医学会総会が開催されます(別紙資料参照)。日本医学会総会は、日本医学会が日本医師会と協力して、医学および医学関連領域の進歩・発展を図り、学術面・実践面から医学における重要課題を総合的に討論することを目的とし、明治 35 年に東京で第 1 回が開催されました。以来 4 年ごとに開催され、大阪での開催は昭和 58 年 4 月以来、24 年ぶりになります。

一方、日本医師アマチュア無線連盟は、アマチュア無線を趣味とする、約 100 名の医師が全国レベルで集まって結成された社団で、1 エリアでは、JM1ZZM のコールサインで社団局を許可されています。

今回、日本医師アマチュア無線連盟では、大阪で開催される第 27 回日本医学会総会の理念・意義およびその開催を、アマチュア無線を通じて全国の医師、国民に広げ伝えると同時にアマチュア無線の発展に寄与し、ひいては公共の福祉に寄与することを目的とし、特別局の開設を決意したものであります。

本医学会総会は、今年は大阪で開催されることから、3 エリア特別局のプリフィックスである、“8J3”とともに、第 27 回日本医学会総会の英語表記である、“The 27<sup>th</sup> General Assembly of the Japan Medical Congress”の頭文字“GAJMC”を組み合わせ、“8J3GAJMC”として、このコールサインの指定を希望するものであります。

以上御配慮の程よろしくお願い申し上げます。

日本医師アマチュア無線連盟  
代表者 西村 与志郎 (JL3SIK)

表 1

8J3GAJMC OP 別運用実績			
	総 QSO	国内 QSO	DX QSO
JA7AOM	43	40	3
JH3AEF	1943	1940	3
JA1KXT	445	416	29
JF1SXY	1130	1120	10
JK1AIN	16	16	0
JE9RWF	544	544	0
JL3SIK	2046	1431	615
JF3JON	94	91	3
JG3DOR	1	1	0
7J3AIF	250	250	0
JM3FUW	42	42	0
合計	6554	5891	663

表2 バンド・モード別交信数

OP		JA7 AOM	JH3 AEF	JA1 KXT	JF1 SXY	JK1 AIN	JE9 RWF	JL3 SIK	JF3 JON	JG3 DOR	7J3 AIF	JM3 FUW	総 計
1.9MHz	CW			81									81
3.5MHz	CW			200	534			1					735
	SSB		3		100		46	1					150
7MHz	CW			97	217	8		535	1				858
	SSB	42	1936				495	422	80		250	42	3267
10MHz	CW			12	50	1		200					263
14MHz	CW							223		1			224
	SSB							1	6				7
18MHz	CW			51				386					437
	SSB							15					15
21MHz	CW							9					9
	SSB		4				3	1	3				11
24MHz	CW							4					4
	SSB												0
28MHz	CW												0
	SSB												0
50MHz	CW							64					64
	SSB							68					68
	AM							8					8
144MHz	CW							3					3
	SSB				16			56					72
	FM			2		6			2				10
430MHz	CW							2					2
	SSB				4								4
	FM			1	209	1		43	2				256
1200MHz	CW												0
	SSB												0
	FM	1		1				4					6
総 QSO		43	1943	445	1130	16	544	2046	94	1	250	42	6554

## 8J3GAJMC での トップ・バンド運用

JA1KXT 相田 信男

表記の件で記事を書くように、JH3AEF 東條 OM から申しつかった。一言で言えば、記念局運用は初めての体験、『呼ばれる側』になるのも稀な体験だったので、楽しく、興奮した。

実のところ、8J3GAJMC/ポータブル3も、ポータブル1も、アンテナはフルサイズだった。ことにポータブル3・大阪城ホールからの運用では、JH3AEF、JL3SIK によって設置された見事なフルサイズ・ダイポール・アンテナだった。——えー、あれは、会員諸氏に是非ともご覧いただきたいかった。実に見事でしたよ！（恐らく、本号の MARS ニュースに設置についての記事があるはず）。

\* \* \*

私の場合、運用日数は3エリア（大阪城ホール）で二日、1エリア（JA1KXT 宅）で五日（内1.9は二日のみ）という短期間に過ぎず、少し残念だったが丁度仕事の QRL と重なり仕方なかった。少ないチャンスながら気づいたこともあり、例えば1.9メガでの運用では、一回の単位というか、一度 QRV すると（ないしは QRV しても）、20数局との QSO の後には他のバンドに移るといった現象が起きていた。単純に言って「呼ばれなくなった」ので他のバンドに QSY していったのだと思う。止めても呼ばれ続ける7MHz とはずいぶん違った。ところがログを整理してみると、ポータブル3では9エリアを、ポータブル1では5エリアを逃して結局AJDを取り損なった。これなどその気になってチェックしていればもっとうまくいったのではないかと言う悔いが多少残った。また上述のような短期間にも拘わらず、二

箇所での運用の度に、（しかも異なったバンドを含めて）呼んでくださった局もあり、世の中にはアクティブな方がいるなーと、改めて感心した。

\* \* \*

1エリアでのアンテナはフルサイズとは言え逆Vで、しかもほぼ南北に張ってあるので大阪城ホールのとことはずいぶん趣が変わった。大阪でのあのアンテナが懐かしかった。3、1、どちらも50W運用だったのだが、いつもの100あるいは500W（国内では流石1KWは出さないので）と比べて、少なくとも呼ばれる側にいる限り困りはしなかった。またQRPで呼んでいただくと、何だか尊敬の念が沸くのを覚えた。

肝心の運用記だけでも、1.9MHz だからといって特に変わったこともなかったと感じている。確かに、弱い信号になると受信に苦労しているという感じしきりなのだけれども、その弱い信号を私が聴き取ろうとしていることは、そのとき同時にバンドにいる全ての局に伝わっている雰囲気、誰も邪魔しない。そう、そう言えば、この紳士的雰囲気こそ、トップ・バンドをいつも包んでいるものかもしれない。とすれば、これが表題をめぐる「運用印象記」ということになるのか。

\* \* \*

表題とずれるが、最後に他のバンドについても少し触れて稿を終えたい。

UHFを省けばCWだけで運用した各バンド毎のQSO数は報告済みであるので、記事になっていることだろう。東條 OM から申しつかったもう一つの課題「10 エンティティを越えるQSO」は出来た。実は最終日に（約束を果たさなけれ

ばと)焦って、18MHz でCQを叩いた。結果、ウルガイ(大阪から 10 メガ)、米国、韓国(群馬から 3.5 メガ)、ヨーロッパ・ロシア、ドイツ、ポーランド、イタリア、スウェーデン、オーストリア、ハンガリー、アジアティック・ロシア、チェコ、ブルガリア、ジョージア、フランス、スイス、ニッポン(!) (以上、群馬から 18 メガ)の15エンティティだっ

た。

アンテナ、記念局設営などいただいたのは無論として、さらに、お呼びいただいたり、クラスターにアップして側面援助いただいた、会員 OM 諸兄に心から感謝したい。ありがとうございました。

## JH2QBQ/MM 丸山先生ご夫妻の 屋久島クルージング 4

5月6日 今日は朝から小雨が降ったり止んだり、最近出来たばかりのイーオンに出かける。歩いて 30 分位で到着、隣のジャスコで納豆と卵を購入、雨降りとあってすごい人出でした。映画でも見ようかと思いましたが、凄いい行列であきらめました。帰り道洒落たヨーロッパアンティークのお店を見つけ立ち寄る。素敵なクラシックなガラスのランプシェードを手に入れる。マリナ迄 15 分の所に一寸変わった木造のレストランを見つけ立ち寄る。一年前に開店したばかりの(よおこそ)と言う名前のお店で、内部は一風変わったアジア風のアレンジでモーニングを注文する。たっぷり野菜とハム卵トーストとお変わり自由のコーヒーで460円は少し得した分。

一年前にお会いして色々気象情報を教えて頂いた福元さんが来艇する。早速コーヒーブレイクしながらヨット談義に花が咲く。次いで頼馬の石川さん奥さんを連れて来艇、今時めずらしくヨットの大好きな女性で石川さんも良い奥さん

を見つけたものです。

宮崎国際音楽祭で今夕 6 時から入場無料のストリート演奏会があると聞き福元さんに会場まで送ってもらいました。しかし雨のため会場内の演奏となり入場制限で入れませんでした。宮崎の繁華街を散策し食事をしてバスで帰宅する。



よおそのオーナー夫妻と

5月7日 夜半からの激しい雨も上がり晴れて暑くなる。早速自転車を降ろしてサイクリングに

行く。自家焙煎コーヒーの店(森の詩季)でランチを注文する。トーストにバター、ジャム、蜂蜜、たっぷり野菜にベーコンエッグとポタージュまで付いたデラックスなものでした。腹ごなしに阿波岐原森林公園に行く。巾4mのレンガ色のサイクリング道路が完備され芝生も綺麗で樹木も生い茂って森林浴を楽しむ。

次にシーガイア方面にもサイクリング道路が続いているのでそちらに向かい、途中のシェラトンリゾートのロビーで小休止し帰路に向う。昨日寄って気に入った(よおこそ)でコーヒーブレイク、チーズケーキもとても美味しかった。オーナーのオーストラリア人としばし談笑、記念写真を撮る。船に帰り早速シャワーを浴びる、家内は大洗濯。



### サイクリングに出かける所

夕方ハーバーの事務員陽子さん来艇、コーヒーをご馳走する。忙しかった一日も終わり明日はいよいよ佐多岬を越え内之浦に向かいます。

(次号に続く)

## MARS 医学アワード年間賞を受賞して

### JJ6QPW 印南 俊夫(鹿児島県)

MARS 会員様

初めてご挨拶いたします私、鹿児島県霧島市 JJ6QPW こと印南(インナミ)と申します。かねてから権威のある MARS 医学アワードはいつも宿願のアワードでした。それが20年間の運用の末、会員局のご協力によりやっと昨年末取得することが出来ました。申請するときの喜び、そして症状を手にしたときは流石にその重みを感じ、杉田玄白像を拝顔したときは思わず手を合わせたものでした。今では額に入れシャックに飾っています。

忘れも出来ません。M.G.R.の JA1KXT 相田様から単年度アワード取得者の中から一局に抽選で賞品を与えるというもので、図らずも私にきまった由、思いもしないプレゼントが送られ

てきました。何と手にして夢のよう！開けて吃驚り！無上の喜びと感動を覚えました。それはスタンダードのコンパクトにして多機能を具備した珍重にして高価な無線機でした。

ここに改めてMARS会員の皆様に心からお礼を申し上げます。誠に有難うございました。

公務員定年退職後、愚息のすすめで熊本まで受験に行き、獲得した若きコールサインの T 生まれの私ですが、年寄りの冷水を顧みず細く長くハムライフを今後も楽しんでまいりたいと思います。

どうぞ、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

平成19年8月吉日

## 南の島からのプチ運用

JK1QLR / KN1Z 長瀬 啓介(京都府)

現在大学で教員をしておりますが、その研究テーマに関連して一昨年よりアジア・太平洋地域の医療機関を訪ねる機会が増えおります。

2007年の3月にマーシャル諸島共和国(V73)とパプアニューギニア(P29)に、また4月にミクロネシア連邦(V63)ヤップ州ウルシー環礁に行く機会がありました。南国の時間は、ある意味ゆったりと、ある意味いい加減ですので、予定通りにはことは進みません。突然できた時間で少しだけ無線の運用をしてくるという程度の不真面目な運用ですが、それぞれ短時間アマチュア無線の運用をしてまいりましたので、P29とV63の現地の様子を中心に報告したいと思います。なお、V63 ユリシーへの旅は、(仕事からみではあるのですが)休暇をとって、参りました。

### パプアニューギニア・ロロアタ島(P29KN)



Pacific International Hospitalにて

本年3月は、まずマーシャル諸島共和国へ行き、いったん成田に戻り、翌日再びパプアニューギニア・ポートモレスビーへ参りました。ポ

ートモレスビーでは、この際、治安に不安のあるポートモレスビー中心部ではなく、20分ほどのロロアタ島に滞在しました。ロロアタ島は小さな島で、一島一リゾートになっています。

パプアニューギニアのアマチュア無線免許制度に関する情報はまとまった情報に乏しく、WEB上で電波行政を担当するPANGTELのページを見つけ参考としました。担当者と電子メールで事前に打ち合わせ、必要書類をPDFにして電子的に送付しましたが、結局PANGTELに出頭した際に印刷して持参しておいた予備の書類をその場で提出し、手数料を現金で支払い、コールサインの打ち合わせをしてP29KNのコールサインで免許を受領しました。電波行政担当者は、発展途上国の中では優秀で迅速な仕事をしていると感じました。免許手続きについての詳細は、DX バケーションに関する掲示板(<http://www.w1vx.net>)にまとめて掲示していただきました。ご関心をお持ちの方はごらんいただけたらと思います。また、当方にご連絡いただけたら、情報のご提供をしたいと思います。



運用場所となったロロアタ島は、ポートモレスビーから15分ほど車を走らせた栈橋から、さらにボートで5分ほど離れた小島です。IOTA上はニューギニア本島とは異なる番号(OC-240)が付与されており、このため、IOTA chaser にとって、意味のあるロケーションになっています。では、この島は、珍しいところかといえますと、ダイビングのリゾートとして約20年の歴史があるところで、日本人ダイバーが絶え間なくダイビングを訪れるところでもあります。このため、女性のダイビングインストラクターが常駐しており、日本人に対する対応も慣れていきます。(私の滞在期間中は帰国されていました。) なによりも周囲が海に囲まれていることから、治安に問題があるとされているポートモレスビー付近では安全な場所となっています。また、アクセスがよいにもかかわらず人目につかないため、衆議院議員選挙の直前に議員の支持者グループが来て、合宿をしていたこともあと聞きました。島の岸にそってバンガローが立ち並び、その間を小路が通っています。道には、ワラビーやクジャクが歩き回っていました。夜になると、カスカスが木の枝に現れるという、楽園そのものの島です。



Loloata Island 遠景

このリゾートは自家発電装置をもっており24時間 AC240V が供給されています。電源容量も十分あり、無線をするのに問題はありません。今回の運用は、用務の空いた時間での運用ですので、アンテナは SuperAntennas 社製 MP-1 という本体重量1kg弱のポータブルバーチカルを使用しました。RIG は FT100D (100W)を使用しましたが、北米・南米・ヨーロッパ・アジア・オーストラリアの5大陸とQSOすることができました。日本を遠く離れておりますと、短波帯での伝播の変化が非常に明確にわかります。たとえば、数秒前まで十分QSOできていたにもかかわらず、瞬間にパスが落ちるのがわかります。



上の写真の右上にみえるベランダに、アンテナが斜めに取り付けられているのが見えることと思います。この種のアンテナの効率は、接地に大きく依存します。このため、ここでは、アース線をアンテナ直下からベランダを支える柱に沿っておろし、銅線を短く切って20本ほど浅く地中に広げて、さらに海水をかけることで接地抵抗を下げるように努力しました。

それでもなお、空中線は効率的とはいえません。このため、実効輻射電力に比して受信能力が弱かったという印象をもちました。

午後に時間が取れた場合は、貧弱な設備を補うためロスが少ないようにパスのある範囲で高い周波数を使い、順次低い周波数に降りて運用をしました。夜間になりますと、北アメリカ、そして一部ヨーロッパからも呼ばれました。できる限りのサービスをしました。翌日の予定もあり、多くの局が呼ぶ中で運用をやめなければならず、なんとも心苦しく思いました。どなたかがスポットすると、とたんにパイルアップになります。ゆったりとお話をして73を送った瞬間にパイルアップが待っていたということもありました。



SingSing

とはいえ、夕食では、ダイビングに来ていた日本人女性や地質調査の仕事をしているオーストラリア人、ダイビングのガイドなどと一緒に楽しく話したり、シンシンをみたり

などと、リゾートの楽しみも経験することができました。

### ミクロネシア連邦ヤップ州ウルシー環礁 (V63LR)

ウルシー環礁(ユリシー環礁とも呼ばれる。Ulithi Atoll) は、長径40km 短径15kmの環礁で、ミクロネシア連邦ヤップ(Yap)州に属しています。ヤップ州の州都コロニアがあるヤップ島の北東約100km にあります。人口は773人(2000年国勢調査)で、この人が5つの島に住んでいます。このため、環礁に住んでいる人は、全員お互いのことを知っているそうです。



Pacific Missionary Aviation 機内



Ulithi Airport - Runway

この環礁の島のひとつであるファラロップ島には、極小規模な空港があります。ヤップ島とは小型機が週に2回往復しており、この便が、物資の運搬や人の移動の重要な手段となっています。



ファラロップ島上空から

ミクロネシア連邦では、州に大きな自治権が与えられています。ヤップ州は、他の州と比較して、伝統的な文化や価値を重視しています。ヤップ島以外の離島に渡航するためには、事前に離島首長評議会から許可を得る必要があります。許可を得るに当たっては、原則として離島側の受け入れ先が明確になっている必要があります。このため、離島に渡るには、人的なつながりが必要であるほか、伝統的な文化とそのような文化との接し方を理解していることが望まれています。今回渡航したウルシー環礁のファラロップ島は、離島の中で唯一宿泊施設 (Ulithi Adventure Resort) が存在する場所であり、リゾートの宿泊予約が取れていれば、比較的容易に渡航の許可が得られる場所です。渡航許可証には、どの島への渡航が許可されるのかまで記されます。

このように規制はあるとはいえ、伝統的社

会の中では、人とのつながりが重要であり、お互いがどのような人であるかが理解され、受け入れられればおおらかに客として受け入れてもらえます。規制によって、伝統の保護と、交流を保とうとしているのです。

私は今回4月20日から23日まで滞在しました。



リゾートの目の前には海が広がる



伝統的な作りの家がまだある。このご老人は、戦前ヤップ島の公学校で学び日本語を話すことができる。

ウルシー環礁での、アマチュア無線の運用は、ミクロネシア連邦独立前に USCG のロラン局に設置された KC6CG 以来、4局の運用が記録されています。私の運用は、G3TXF Niegel がハムフェアに日本に立ち寄ったあと行った V63TXF/p 2003年の運用以来で、

戦後 5 回目の運用となります。Niegel の運用場所も同じリゾートであり、彼の記録が準備に大変役立ち感謝しております。(帰国しましてから、彼にメールを書き御礼を申し上げました。)



High Chief 主催のパーティーに招かれた。机上には、やし酒のビンが並ぶ。机上の青いやしのみは、ビンロウの代用としてつかわれている。菊正宗を差し入れた。



子供たちから花飾りをかけられた

今回の渡航の主目的も、アマチュア無線ではありませんでしたが、国内のアマチュアで QSO の需要はあるものと思い、日本語でのみ渡航と限定的な運用のアナウンスをしましたところ、2 日後には英語に翻訳され PEDITON 情報として広まりました。なんとも恐ろしいことになったと少々悩みまし

た。

免許は、昨年大和クラブの方が、V63 ペディをされた際に同行させていただく計画がありましたために、そのとき一緒に申請して免許をうけておりました。持参した機材は、P29KN の機材と同じ機材 (FT-100D+ SuperAntenas MP1) とし、アンテナに不調が生じたときのために、アンテナを仮設できるだけの線材と工具を準備して渡航いたしました。

アンテナはリゾートのベランダに接地し、できるだけ垂直に架設しました。しかし、方向としては海が南西方向にひらけており、JA 向きとはいえませんでした。このほかのアンテナの形式や設置方法も検討しましたが、立木など使用できるものが限られ、建物の影響を考慮するとこの方法が結局ベストと考えました。

到着当日直ちにアンテナをこのように架設して運用を開始しましたが、当初はパスが開けておらず、16:20 JQ2IQW が聞こえておりましたので呼び出し、J3E 21.270 57/57 が V63LR の First Ever QSO となりました。この後、17:10 ころまで運用をしましたが、CQ への応答もなく夕食をとりました。運用を再会したのは 2 3 時ころからですが、7 MHz A1A で CQ を出したところ、W から呼ばれ以降直ちにパイルアップとなりました。数秒周期の QSB とスプリットを指定しても隙間なく呼ばれるほどのパイルのため、へばな私には聞き取れず、断片的に取れるコールを執拗に追いながら QSO しました。しかし、スポットされた情報を元にだと思いますが、こちらの信号が受信できていないにもかかわらず、一方的に呼ぶ局や一方的に RST を

送りつけてくる局やいろいろな局が聴こえました。



リゾートのベランダから海を見る



アンテナの架設状況

運用時間や周波数を変えながら、JA など東アジア、北米、ヨーロッパなどにそれぞれサービスできるように努力をしましたが、ヨーロッパの局にとっては、日本・中国・ロシアの壁、北米の壁両方が厚く、当方も設備が貧弱であったこともあり、なかなか QSO にはいたりませんでした。

また、14MHz で運用をした際には、よく聞こえる相手でもウルシーからの電波は届かないようで、V73 での運用でも経験しましたがパスは対称ではないと感じました。

ウルシー環礁は、日本にとって、特別なところではあります。第二次世界大戦末期、日本本土へ向けて米海軍が兵力を集積するために、このユリシー環礁が用いられました。このため

日本軍は回天を投入してウルシー環礁に停泊中の船舶を攻撃しました。この結果、油送艦一隻が炎上沈没しています。また銀河を特攻に使用し（梓攻撃隊）、ウルシー環礁に停泊中の艦船を攻撃した際の記録が、「梓特別攻撃隊」（神野正美著）という本としてまとめられています。

この本の中に、日本人の遺体が埋葬されたという墓地について触れられていますが、私がユリシーに渡航することを知った関係者から墓地の現状を教えて欲しいというご依頼を受け、現地を見にいってまいりました。また「二式大艇空戦記」（長峯 五郎著）にもこの時の様子が記されております。



上の写真は、米海軍がマンジェジョン島に建立したこの船の乗組員の慰霊碑です。



この写真は、Asor 島にあったかつて墓地であった場所の現状です。戦後まもなく改葬されこの場所に墓地があったことを知る人は、現地の方にはいらっしゃいませんでした。

戦後生まれ、「戦争を知らない」世代の私にとっては、マーシャル諸島共和国、グアム、サイパン（北マリアナ連邦）、ミクロネシア連邦、そしてパプアニューギニアと訪れるたびに、戦争の中で生き、そして命を落としていった、日本人・アメリカ人そしてその戦いに巻き込まれていったその地に住む人のことを思わずにはられません。

このような場所を回るにあたって、船を出してもらった人や、回った島で昼食を振舞っていただいたこと、各島の酋長（Chief）の皆さんとお話したことなどをどれも大切な経験となっています。

マンジェジョン島でいただいた、ヤシガニのおいしかったこと、パーティーに招かれたときにいただいた、伝統的な食事、海亀の肉、やし酒、やしの木に登ってとってくれた実をその場で切って飲んだときの、さっぱりとした味

食いしんぼうなお話ばかりですが、アマチュア無線の運用を含めてウルシー環礁渡航から大きな影響を受けたように思います。



ウルシーでの運用は22日の深夜まで続けました。23日早朝、雨が強く降り始めたところ、アンテナのコイルの絶縁あるいはコネクター部の絶縁が不良となったため、SWRが上昇し、運用を終了することとなりました。

23日、朝食を食べ、再びウルシーに来た

いものと思いながら再び小型機にのり、環礁の島々と、コバルトブルーの海岸、そしてどこまでの深い濃紺の海をみながら、ユリシーに別れを告げてまいりました。

ヤップ島にもどると、ユリシーに比べて近代文明の中での暮らしにもどったという気がしました。とはいっても、クレジットカード決済もできたりできなかつたりする田舎です。このため、帰国便までの時間を、ゆったりとした南の島の時間の中で、宿泊した ESA Bay View ホテルのベランダに再びアンテナを架設して、ゆっくりと JA の局と QSO をしたり、ヤップ島の自然を見て過ごし、帰国をいたしました。



ミクロネシア連邦へも JA から出かけて運用される局が増えてきましたが、ヤップは飛行機のルートが異なるせいか比較的運用が少ないようです。

ヤップは、まだまだ自然と伝統が残っている場所です。機会がありましたら、一度おいでになるにはよいところと思います。

### 海外での運用をふりかえって

日本のアマチュア無線局が米国・フランスで運用する際の手続きが簡素化された(不要

になった) ほか、CEPT による無手続きの運用許可が各国で広がってきており、外国でアマチュア無線局を運用する障壁が低くなってきています。無線機も小さくなり、他の用事に出かけた際に、小さなアンテナと FT-817 を抱えて出かけることができるような時代になりました。このようなスタイルで、アメリカ、フランス、ドイツ、ルクセンブルク、スイスで運用をしてみましたが、結構おおくのかたが、仕事の合間や、家族旅行の際に海外で運用をされるようになってきたようです。海外で運用をしてみますと、JA から呼ぶとどのように聞こえるのかもよく理解できますし、また今回私が参りましたような田舎ですと、人工雑音が殆ど無い状態での運用というのがどのようなものか、昔のアマチュアがどのような運用をしていたのかを想像することができるかと思いません。そして、小さな電力でも遠くに届くことに驚きます。

皆様も機会がありましたら、ぜひ運用をご検討になってはいかがでしょうかとおもいます。

長瀬啓介 JK1QLR / KN1Z

also V73KN / P29KN / V63LR

京都大学医学部准教授

(附属病院医療情報部)

E-mail: nagase@mtd.biglobe.ne.jp

# 遥かなる潮路

JH3AEF 東條純一

私は5月3, 4, 5日と、仁尾(香川県)、しまなみ海道(愛媛県、広島県)、境が浜(広島県)を巡るクルージングを楽しみました。

## プロローグ

分娩の取り扱いをやめて丁度一年が経とうとしています。その決断をさせたのはひとえに脳梗塞にみまわれ、ICU という空恐ろしいところに収容されるはめに至ったことそのものであります。しかし、幸いにも私は今こうしてパソコンに向かっています。あたりを見渡せば私ばかりでなく、そんなに恐ろしい目にあったのに「良かったなあ」などという話も少なからず聞こえてきます。医学の進歩の素晴らしさを実感する瞬間であります。それでも私の場合、何といってもラッキーが付きまとい、それにもまして皆様の大のご援助があってこそと、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、医者心がついた時からお産と向き合うことを最大の使命と誇り、家族や周りには多大の迷惑を撒き散らしながら、ここまで何とか格好をつけてきた私にとりまして、生活から分娩の取り扱いが無くなることほど寂しいことはありません。磨き上げた設備の一部が使われなくなることも、お前とならと、万難を排して集まってくれている誇らしい助産師や、その他のスタッフからなる鉄壁のシステムを解くことも、何とも残念なことでありました。

しかしこの一年、産婦人科医を返上したつもりはもうどうありませんが、ひとえに人間らしさ、らしい生活の回復に努めてまいりました。また、そ

れが出来るようにもなりました。結果、ようやく人と共通のテーブルで話ができるようにもなってきました。以前の私は、クルーが楽しむクルージングも帰りは JR を使ったのトンボ帰り。日差しの強い海から帰って、クルーは一風呂浴びて冷たいビールでも飲んでいる頃だろうと思いながら、私は飯もそこそこに痛がる産婦と討ち死にと、その落差の大きさを惨めに思う感覚すら失っていました。

かくして私は分娩の取り扱いをやめ、入院を扱わなくなってやっと人間らしさ、人間らしい生活を徐々に取り戻しつつあります。しかし反面、如実に感じることは、胸を張って「私は産婦人科の OFICE PRACTITIONER です」と公言し、不足なく飯の食える健保制度が何時の日になればやって来るのだろうかを痛切に感じる昨今でもあります。

5月3日 快晴午後風浪少々

明石海峡大橋を越えてからは本船航路の浮標を数えつつ SPICAIV(艇名)は快調に飛ばしました。海は広い。目標に向かってまっしぐらでも悪くありませんが、広い海にも航路というものが設定されていて、そこには大きな浮標が設置されています。勿論 GPS により航跡は随時ディスプレイ上のチャートにプロットされ、同時にソナー(USG です、あの!)により海底の状況も表示され全くIT化された操舵席ではありますが、更に海図による位置の確認と目視による安全の確認はおろそかにはできません。多くの場合、一人が操舵、一人がワッチ(watch)とディスプレ

イによる航跡の確認、一人が機関をはじめとする艇全体の調子に目を配る役割を分担しています。



SPICA IV

我々の愛艇 SPICAIVは艇長35f約 10.5m、キャタピラー320HP のディーゼルエンジンを2機搭載し、巡航速度 19~20Kt、最高 26~7Kt (約 50Km/h)、燃料タンク 1350l、清水タンク 400l をもち、燃料タンクを満タンにし、巡航速度で航行しますと約 23~24 時間の航行が可能です。操舵は船室内とフライブリッジ(船室の上にあたる屋上部分)のいずれからでも自由ですが、天候、海況が良ければフライブリッジでの操船が、海と空と風の間を漂う爽快感を満喫する上で最高です。

自動車の車検のように、船にもプロ、レジャーを問わず船検が厳しく行われます。船の性能、現況、搭載安全装備などにより航行可能な範囲、時間(昼夜)共に厳しい制限が課せられます。SPICA の場合、北海道から沖縄まで航行できない海域はありません。(正確には航行に際し申請と許可の必要な海域がごくごく一部にあります)別に、この艇を操舵するためには小型船舶操縦士免許が無ければなりません。現在のクルーは全て一級小型船舶操縦士免

許の資格を持ち、常に交代で操舵に当たっています。

搭載許可人員は 15 名、8 名分の就寝設備、水洗トイレ、温水の給湯とシャワー、冷蔵庫と電子レンジ、GPS と無線設備、ソナーなどが備えられています。オーストラリアの造船所で建造された FRP 製(現在見られるレジャーボート、ヨットのほとんどは FRP 製)で、建造に際しては二人の仲間が渡豪して希望事項や要望事項を話し合ったりもした思い入れの深い艇でもありません。進水して既に 11 年になります。11 年にもなりますと、艇の調子や機嫌も敏感に分るようになり、進水以来、大きな事故や故障もなく現在も快適なクルージングを提供してくれています。艇名 SPICA の後につくIV=4 は、四代目の艇を示し、多くの場合徐々に大型の艇に乗り換えるのに伴い、番号が一つずつ大きくなってゆきます。

SPICA になってからは共同オーナー制をとり、気心の知れた仲間が艇の購入、運航、保守、そしてマリーナでの保管などの出費を均等に分担しています。時期により共同オーナーに出入りはありますが、現在は四名が共同でクルーを組み、すでに 24~25 年が過ぎようとしています。うち一人は彼が医学部に入学して以来の付き合いで何と長い時空を共に過ごしてきたことでしょう。クルージングは誰が言い出すでもなく計画が決められ自由気ままに海を楽しんでいます。またあるときは一人のオーナーが家族や仲間を招いて船上パーティー、花火観賞、ミニクルージングを楽しむこともあります。

艇は現在、西宮市第三セクターが運営する新西宮ヨットハーバーをホームポートとしています。このハーバーには 500 艇ちかくのヨットやボートが舫いをとっており、ハーバー主催の楽し

い催しも沢山計画され自由に参加することもできます。海に出なくても、光る波頭を眺め、かもめの飛び交う姿や鳴き声に浸り、一日ゆっくりハーバーの雰囲気を楽しみながらくつろいだ時間をすごすマリライフ派、ブルーウォーター派の人たちも沢山見かけます。

さて、SPICAは小豆島大角鼻に近づく頃から風浪の中にはいり、ピッチング(船が前後に揺れること)を شدしたため、艇速を15~16Ktに落とし、瀬戸大橋を快調にクリアしました。

瀬戸大橋の少し東、坂出市沖では小型貨物船の船火事を目撃、既に数隻の船舶が救助の体制に入りはしていましたが、その黒煙のすさまじさは船火事を初めて目撃する我々には何とも恐ろしい光景でした。その煙からさして距離もないところを巨大なタンカーがすり抜けるように航行せざるを得ないさまは、瀬戸内の船舶の往来の厳しさを目の当たりに見せ付けられる恐ろしいものでした。瀬戸大橋の近辺は特に小型の釣り舟や漁船、観光船を含めた船舶の往来が激しく、坂出や水島のコンビナートに出入りする巨大なタンカーが島影より突然姿を現すこともあり、非常に緊張を強いられる海域です。舵を取る者は勿論、クルー全員がフライブリッジに上がり、これウオッチに努めます。当日も橋脇の信号所には本島付近巨大船ありの警告が点灯し注意をしていた所、水島コンビナート方面より2艇のタグボートに先導された巨大なタンカーが、突然島影から姿をあらわしました。巨大船を水面より数メートルしかない我々の位置から見ますと、まるでデパートの玄関から屋上をみあげるような感覚です。我々は「ウワーデッカー」と叫ぶ前に逃げるが勝ちですが、あの巨大船の艦橋からは一体どれほどの範囲が見えているのか心配することしきりです。邪魔のない

ように早々に退散しました。

いよいよ、瀬戸内の多島海を堪能できる海域に入り新しい緑に彩られたさまざまな形の島々を海図に照らし合わせ、一つ一つ確認しながら備讃瀬戸北航路を西進、いつ見ても素晴らしい眺めに心安らぎ、感激ひとしおです。

備讃瀬戸航路は瀬戸大橋の直ぐ西、牛島で西向きの北航路と東向きの南航路に分けられています。大橋の橋げたもあり、海上交通も多く、往来の安全のためにとられた、海の一方通行ともいえる処置です。

我々の小舟は一方通航を逆航していても法的にお咎めを受けることはないようですが、コースガードと書かれた巡視船の前でこれをやる勇氣など全く無意味です。しばらく西進すると少し海域も広くなり北路と南路が高見島の西で一本にまとめられます。しかし、一本にまとめられた航路も、浮標が航路の中心に付設されており、左対左で行き交う対面航行が守られています。

多度津沖を過ぎるころより、円錐形で特徴のある六島を目標に本船航路より転向、香川県と愛媛県との県境に近い崎半島の先端を西に回りこみ今日の目的地、仁尾のマリーナに二回目の入港を果たしました。西宮のホームポート09:30発仁尾入港14時少々前、約5時間弱の快適なクルージングでした。前回はこれを一日で往復したのですから少々厳しいものがありました。

このマリーナは、一昨年だったと思いますが愛知のJH2QBQ丸山先生の航海記にも紹介されたことのある非常に近代的で設備の整ったハーバーです。

JH2QBQ/MMと申しますと、おしどりセーラーの丸山先生、ヨットセレナを駆けて日本の

最北、最東、最南、最西端を、すなわち北は宗谷岬、納沙布岬、南は波照間、与那国島までを極められたお話は、MARS HP にご投稿いただいた航海記でもおなじみのことでしょう。その大航海を、ところによっては二度も繰り返して実践なさっています。もっと素晴らしいことは、風だけが推進源のセーラーで実現なさっていることでありましょう。いやー、実に素晴らしい、今、最も問われるエコクルージングなのです。それに比べてスピカIVはと申しますとウンと言葉に窮する肩身の狭さを常に感じながらのクルージングでもあります。

さて、街道筋から遠く入りこんだ半島の先端近くにあるこのマリーナは喧騒知らず、風光も明媚ときていますから申し分ありません。4連休の初日にもかかわらず時間がゆっくりと流れ、出会うひとまばらでした。

今回このハーバーに入港を決めた第一の理由は、ハーバーの素晴らしさもさることながら、10年以上も我々の勝手な要求に文句も言わず応えてくれている愛艇 SPICAIVの更なる堅調と、あわせて、彼女を翔って航行する我々クルーの安全をも祈願するため金毘羅さん詣でをすることにありました。

金毘羅さんは皆様ご存知のとおり、平安、室町の時代から海上航行の安全をお願いすることで知られた神様です。幸いクルー5名のうち3名までは奥社まで到達、最高のお参りすることが出来、恭しくお札を授かって参りました。霊験あらたかも極みであります。

いや、それにしてもあの1360段とかいう石段はすさまじいものでした。初のうちは何十段かずつのブロックの石段が続き、お社らしき荘厳な屋根が見えてあれまでかと思いきや、本殿まではまだまだとか、またまたお社らしきものが現

れてはこれでもない、その内の一塊の石段の後にやや緩やかな坂道が挟まれるようになり筋肉の硬直予防の気配りでしょうか。

そういえば、一番下の門前には、どこそこまでタクシーで、とか、おかごで急行とかの看板もありました。かなり下のほうでしたが事実、ほえかごとも出くわしました。何の拍子か受付で特急券を買えば待ち時間なしで診療を受けられる某医療機関の話が頭をよぎりました。何故ここでその話が頭をよぎったのかは良く知りませんが、僅かながらも共通する感覚があったのでしょうか、、、

振り返れば讃岐平野はもはや下の方になっていました。これはこれはなかなかのものだわいと感心しているすぐ脇を、子供はキャッキヤとすり抜けるように飛び上がって行きます。畜生と思いつつもあえぎながら、えらく急な階段やなと思ったとたん本殿前に躍り出ました。階段の登りがまちには神職が二人、ご苦労さまでございましたとお迎えいただきました。早速、航海の安全はもとより、家内安全、本業の大過なきことをお祈りしました。不思議にからだの疲れは消え去りご利益の始まりだったのでしょうか。

さてとあたりを見回すと、右手奥の方に奥社への道標が目につきました。これはえらいものを見つけたわい、しかしお参りしない手はない。入り口のなだらかな坂道に、軽い気持ちで歩を進め、やがて再び石段が始まりました。今度は稲妻状に高度を稼いでいくようです。もはやみやげ物店もなく、ただただ森閑とした自然林の中を、右へ左へ。行けども行けどもお社らしきものは現れません。行き交う人々も若者ばかりで年寄りには出くわしません。登山じゃあるまいしとたかをくくりながらも、かなり息を弾ませながらふと前方に視線を上げると、鮮やかな朱に塗ら

れた奥社が目に飛び込んできました。本殿から結構な登りだったなあなど考えながらお社の前に進み先ずはお参り。社務所では奥社としっかり朱記されたお札を授かりました。これは靈験あらたかなりと拝受。いらぬことを質問しました。「船にお祭りする時は釘で打ちつけても宜しいか」神職さん、怒りもせずに「お船には神棚がありますやろ、そこへお祭り下さい」神棚？残念ながら我々の艇にはありません。クルーの一人曰く、、、の駅前に神具屋さんありませ。

腹もへってきたので帰りは超特急、後続部隊と出くわしたのは 260 段目の茶店の前。

「先生らどこまで上がりはりましたん？」

「260 段」

「260 段でここですやん」

「、、、、、、」

「そら永いこと待たせましたな、すんまへん」

「いやいや、ゆっくりさしてもろて、だいぶ出来上がってますねん」

「ほなぼちぼち晩飯食うとこ探しましょか」

とクルー一同、急に足早に歩き出しました。無けりゃ良いのに途中に地酒醸造所があり、焼酎の一升瓶を仕入れることになってしまいました。琴平の町を探し回ってやっと見つけた小料理屋で「うつぼのたたき」「サワラのからすみ」、、、あまり馴染みのないメニューから片っ端に注文、今日のクルージングの楽しい話も肴にたっぷりアルコール消毒をすませて日付の変わる頃、愛艇に無事帰還しました。海上より陸上でのナビゲーションの方がずっと難しいと感じた一日でした。

仁尾マリーナではクルーの顔つきから予感したのか、夜遅くの帰還のときの通用門の鍵の開け方を教えてくれるやら、ポンツーン(栈橋)に入る電子錠のカードも貸与してくれるやら、たい

そう気配りのきいた待遇をうけ、クルー一同大満足の一日、いや半日でした。

もって帰った焼酎で艇内での宴会は日付が変わっても延々と続けました。おまけに一泊 1980 円の停泊料は何とも有難い料金設定です。既に金毘羅さんのご利益が大いにあらわれているのを実感しながら夢の世界へといざなわれてゆきました。

#### エピローグ

5月4日 晴れ時々曇り午前中海上霧 朝5時前に目を醒ます。「覚ます」が正しい書き方でしょうが、今朝の我々は醒ますの方が当を得ているといえましょうか。焼酎の一升瓶はずで底面が現れる状態で波打っておりまして。クルーの邪魔をしないように艇をぬけだします。まだ陽は昇らないものの今日も良い天気のように見えます。沖は霧が出ているのか乳白色で空とも海とも区別がつきません。ハーバーのなかの人影はほとんどなく、時折、他艇から起きだしてきた人が朝の挨拶もさりげなく、思い思いの散策をはじめていました。

マリーナのすぐ隣に忙しく人の動くのが見られ、車も出入りしている所がありました。なにかと近づくにしたがって、そこが漁港で朝の競りが開かれているのだと判かりました。大きな漁港でもなく大きな競りでもありません。小さな漁船で水揚げされたばかりの少しばかりの魚たちが、それぞれにとろ箱のなかで跳ねながら市場に運び込まれてきます。しばらく競の様子を眺めているうちに、市場の向こうにあまり大きくない石の鳥居が目に入りました。ぶらりとその方角に近づいてみると、鳥居から石段が続き、雑木の中を小高くなった丘の上に続いています。両脇は新緑に彩られた雑木の林、道の端には

緑濃いススキ、新芽のついた萩、そして小道は次第に心細くなり、ソフトな踏み心地が次第に増してきました。踏み心地の正体は積もった松の落ち葉、いたるところに確りした形の松ぼっくりも散らばっています。頂上近くには小さな無人のお社、それでも田舎能でも修めるのでしょうか、本殿のわりには広い舞台が設けられています。鳥居からの小道に比べお社の手入れは行き届いているようにみえました。地元の人達の大切な信仰の場なのだと容易に想像できました。お社の裏側には海に面した絶壁の上に古びた木製の望楼がしつらえられ、訪れる人も稀なのか所々に蜘蛛が巣をかけています。

少し汗ばんだ肌を海からの風が心地よく流れ、静寂の中でぼんやりと沖を眺めていました。朝日の中で海は青というよりも鈍くシルバー色に光り、遠くの端で同色の空と一体となり島影も行き交う船の姿もみえません。

今日の航程はそのシルバー色の彼方、真西よりやや南、260度。あの銅の精錬所で有名な四阪島を經由、しまなみ海道に入り、四国～尾道間に点在する諸島群を縫って鞆の浦に至る80マイル程、実にのんびり出来る航程です。白金色の緞帳の彼方にどのような感激の光景が迎えてくれようとしているのでしょうか。望楼に腰を下ろしぼんやりと海と向き合う至福の時間でした。

今クルージングは予定どおり5日15時30分無事ホームポートに帰艇いたしました。



阿伏兎観音堂(写真:赤いお堂)

鯛網で有名な鞆の港の西方の断崖の上に鎮座する阿伏兎観音。朱に塗られたこのお堂は、備讃瀬戸航路から島なみ海道の北端、尾道水道に向かう船舶の良い目標でもある。



お堂内部

地元の人達は安産とお乳の良く出ることをお願いしにお参りするのだとか、お札や絵馬ではなく特性のポインが所狭しとおさめられていたのには驚いた。

## 会員異動

入会 JK1QLR/KN1Z 長瀬啓介先生(京都市)

退会 JR2IZO 中村仁先生 平成19年2月14日御逝去

JA3ARY 大門茂行先生 平成19年3月12日御逝去

## 庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒577-0058 東大阪市足代北1-16-20

東條医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 06-6781-0076

F A X 06-6781-0078

E-mail jaef.tojo@nifty.com

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内 MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただくことがありますので、ご了承ください。

## 編集後記

阪神淡路大震災の際の医師の初動体制についての本庄先生の記念講演を拝聴させていただいて記憶の新しい内に新潟県中越沖地震が発生しました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

阪神淡路大震災の際には、私ももともと若かつたし国立病院のレジデントという動きやすい身分であったため、勤務先の病院から2ヵ月半派遣された医療チームの第1陣として約2週間須磨区の小学校に設置した医療救護所で活動することができました。高校時代に下宿していた東灘区の木造2階建てのお宅は完全に倒壊してぺしゃんこになっていました。

でも、今回のように放射能漏れ事故が疑われる場合にも速やかに対応できたのか問われると答えに窮するかもしれません。総合通信局が落成検査や変更検査の際に持参する電界強度計のような感覚で、いや我々が電圧や抵抗値を測定するテスターのような感覚でガイガーカウンターを常備して行動しなければならなくなってしまったのでしょうか。そんな世の中は勘弁していただきたいものです。

(DE JF3JON)

## 日本医師アマチュア無線連盟会報

(第65号)

発行：日本医師アマチュア無線連盟

発行日：平成19年9月15日

編集：田中憲児(JF3JON)

印刷：西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail [info@nishioka.co.jp](mailto:info@nishioka.co.jp)